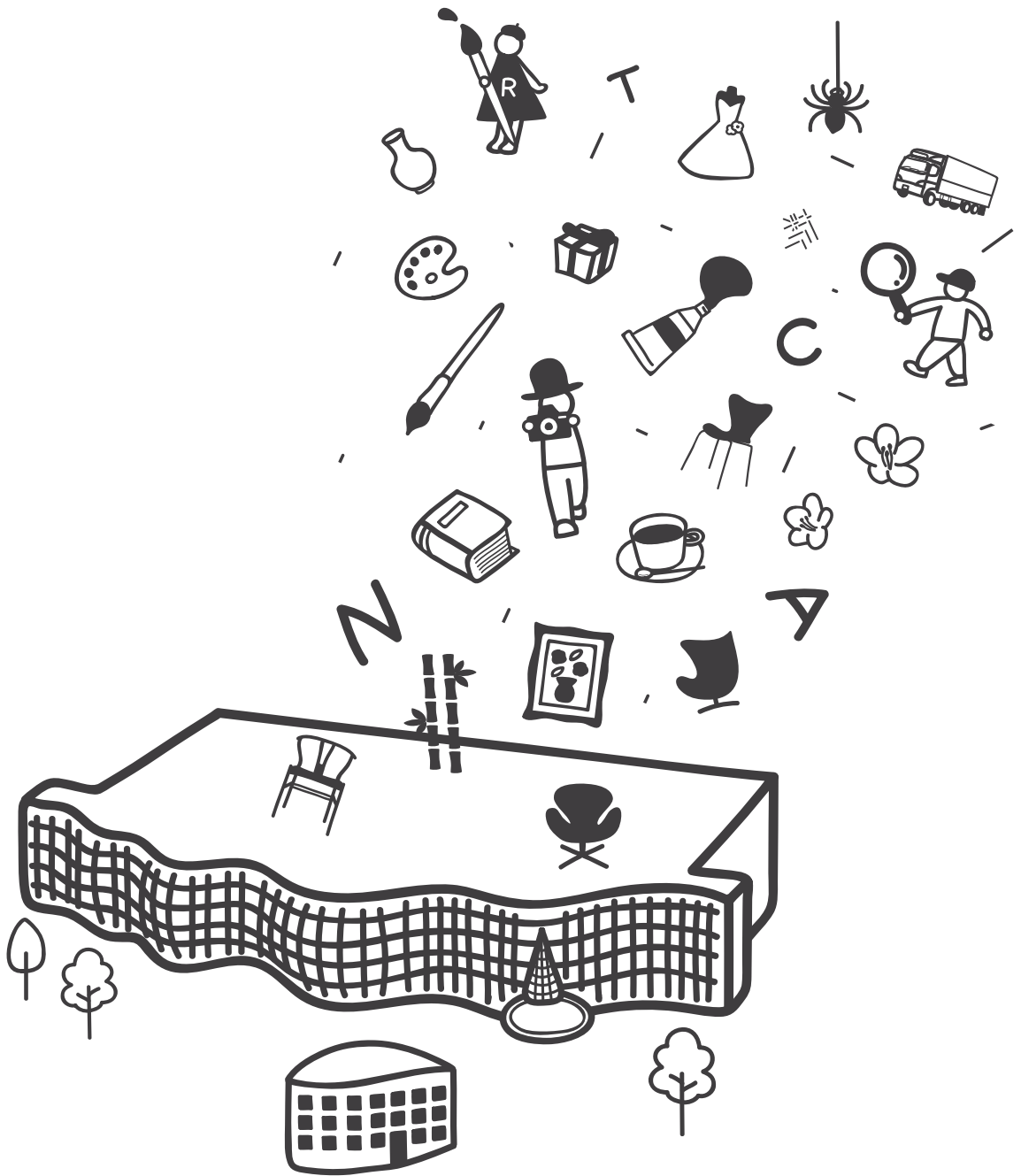




THE NATIONAL
ART CENTER, TOKYO
国立新美術館



歩く・見る・知る美術館

国立美術館 建築ツアー記録集 2017-2021

歩く・見る・知る美術館

国立新美術館
建築ツアー記録集
2017-2021

ご挨拶

国立新美術館は、コレクションを持たないアートセンターとして2007年1月に開館いたしました。当館は建築家の故黒川紀章氏と株式会社日本設計の共同体による設計です。開館前に、完成したばかりの建物を皆様にご覧いただくために、当時のスタッフ総出でお披露目の建築ツアーを行ったのは懐かしい思い出です。その後、夏休みの小学生対象のバックヤードツアーを開催しておりましたが、開館10周年を機に、株式会社日本設計の協力のもと、教育普及室主導で建築ツアーを本格的に再開いたしました。このツアーでは当館の特徴的な建物のコンセプト、構造やデザイン性ととも、美術館という建物が持つ機能に関するガイドを交えることで、参加する方々に建築の面白さと奥深さをご紹介し、当館へ親しみをもっていただき、合わせて美術館の使命をお伝えする場として開催してまいりました。以降5年間、様々なコースのツアーを提供し、建築ガイドアプリ CONIC の作成や、さらには建築ワークショップの開催など建築ツアー以外にも活動の幅を広げています。コロナ禍においては、これまでの経験を踏まえて、対面とオンラインを組み合わせた新様式のコースなども編み出しました。また、人材育成も兼ねて、研修を受けた当館のインターンやサポート・スタッフ(学生ボランティア)に加えて、日本設計という専門家集団の社員有志の方々がボランティアでツアーガイドを務める全国的にも珍しいスタイルで継続してツアーを行っており、おかげさまで大変人気のプログラムとなっております。本記録集はそうした5年間の歩みをまとめ、ふりかえることで次の5年に向けての歩みを始めようとするものです。これからも楽しい建築ツアーをお届けしていけるようスタッフ一同努力してまいります。

最後になりましたが、この建築ツアーは、多くの人の協力で運営されてきました。そのすべての方々に心より感謝申し上げます。

2022年3月
国立新美術館

謝辞

本書の作成及び国立新美術館の建築ツアー開催にあたり、株式会社日本設計、株式会社黒川紀章建築都市設計事務所、岩井達弥光景デザイン・岩井達弥様他、多くの方々から多大なるご支援とご協力を賜りました。ここに記し、深い感謝の意を表します。また、ここにお名前を記すことができなかった方にも心から御礼申し上げます。



目次

- 02 ご挨拶
- 03 謝辞

- 06 国立新美術館のご紹介

- 08 **Report ①** 5年間の歩み
- 12 **Report ②** ある日のマスターコース
- 14 建築データ/概要
- 18 建築データ/フロアマップ
- 20 建築データ/沿革・図面
- 24 **Report ③** 開催記録
- 30 **Report ④** 5周年記念座談会
- 42 **Report ⑤** 運営メンバーの声:私と建築ツアー
- 50 **Report ⑥** 参加者の声
- 51 **Report ⑦** 国立新美術館建築ガイドアプリ CONIC
- 52 **Report ⑧** 運営メンバーリスト

建築ツアーのオリジナルのトートバッグ。
参加者とスタッフ全員が肩からさげて館
内を巡ります。ひもについている缶バッ
ジはグループの目印です。

トートバッグ・表紙イラスト：
高橋梨佳(平成28、29年度インターン)

国立新美術館のご紹介



活動方針

国立新美術館は、芸術を介した相互理解と共生の視点に立った新しい文化の創造に寄与することを使命に、2007年、独立行政法人国立美術館に属する5番目の施設として開館しました。以来、コレクションを持たない代わりに、人々がさまざまな芸術表現を体験し、学び、多様な価値観を認め合うことができるアートセンターとして活動しています。具体的には、国内最大級の展示スペース(14,000㎡)を生かした多彩な展覧会の開催や、美術に関する情報や資料の収集・公開・提供、さまざまな教育普及プログラムの実施に取り組んでいます。

事業内容

① 展覧会事業 — さまざまな芸術表現を紹介し、新たな視点を提起する美術館

- ・全国的な活動を行っている美術団体等に発表の場を提供します。
- ・さまざまな分野における新しい表現を紹介し、同時代の芸術の振興に努めます。
- ・現代にふさわしいテーマや知見に基づいて、さまざまな時代や地域の美術を紹介します。
- ・調査研究の成果を、多様な展示活動を通じて、分かりやすく普及していくことに努めます。

② 情報資料収集・提供事業 — 情報資料の収集・公開を通じて人と芸術をつなぐ美術館

- ・国内の展覧会に関する情報を収集し提供します。
- ・戦後の国内の展覧会カタログを網羅的に収集し公開します。
- ・日本の近代以降の美術に関するさまざまな資料を収集し公開します。

③ 教育普及事業 — 参加し交流し創造する美術館

- ・展覧会にあわせた講演会やシンポジウム、ギャラリートークを実施します。
- ・作家トークやワークショップにより、アートを楽しみ、アートについて語りあうための場を提供します。
- ・インターンシップやボランティア・プログラムをととして、美術館における実践的な活動の場を提供します。
- ・美術館の教育普及事業に関する資料の収集に努めます。

開館時間など

10時～18時(入場は17時30分まで)

※会期中の毎週金・土曜日は20時まで(入場は19時30分まで)

休館日は毎週火曜日(祝日または振替休日に当たる場合は開館し、翌平日休館)

お問い合わせ

独立行政法人国立美術館 国立新美術館

<https://www.nact.jp>

Tel : 050-5541-8600(ハローダイヤル)

アクセス

電車

- ・東京メトロ千代田線乃木坂駅
青山霊園方面改札6出口(美術館直結)
- ・東京メトロ日比谷線六本木駅4a出口から徒歩約5分
- ・都営地下鉄大江戸線六本木駅7出口から徒歩約4分



2017—2021

2017年1月、「国立新美術館開館10周年記念ウィーク」の特別プログラムとして、「建築ツアー 歩く・見る・知る美術館」が株式会社日本設計の協力を受けて開催されました。本記録集を編むにあたり、まずはこの開館10周年記念企画の建築ツアーの話から始めたいと思います。

国立新美術館の建築を紹介するガイドツアーの企画が動き出したのは、2016年の初秋のことです。その少し前から連携の話が持ち上がっていた株式会社日本設計と、協働して行うプログラムを検討する中で出てきた案が、建築ツアーでした。国立新美術館を建築家の黒川紀章氏と共に設計した日本設計の人的リソースを存分に活かすには、やはり「建築」をテーマにしたプログラムが最適だろうということ、また、美術館側に小学生対象の「こどもたんけんツアー」を行ってきた実績があったことなどから、ごく自然な流れで「大人を対象とした建築ツアー」という計画案に行き着きました。

10月には企画の骨子が出来上がり、美術館と日本設計双方でツアーガイドスタッフの募集が開始されました。日本設計側は、呼びかけに応じて集まったメンバーがボランティア1期生となり、現在までメ

ンバーを入れ替えながら続く、美術館サポートチームが誕生しました。

美術館側では、職員とインターン、そしてボランティア登録している大学生・大学院生(平成28年度サポート・スタッフ)から、ツアーガイドを募りました。これに手を挙げたスタッフは、12月に4時間の研修を受講し、その後各自で実地練習を重ねていきました。ツアーで解説をするための資料としては、解説原稿と建築データ集、建設当時のパンフレットや特集記事のコピーなどがあり、スタッフは設備やデザインの解説が見学ルートに沿って記載されている解説原稿に、各自関心のある話題や情報を加えながらツアーを進行します。建築データ集には、研修や練習の中で出てきた質問に関して調べて判明した情報が随時加えられていきました。

実は国立新美術館では、開館前の2006年10月に、竣工した建物を紹介する建築ツアー(「国立新美術館プレ・オープニング企画 建築ツアー」)を開催しており、そのときの経験や資料が10年ぶりのツアーで大いに活かされることになりました。

そうした準備を経て、2017年1月20日から30日までの「開館10周年記念ウィーク」に、12回の建築

ツアーが実施されました。行われたのは「スタンダードコース」と「マスターコース」の2種類のツアーです。スタンダードコースは、美術館スタッフや学生のボランティアがガイドとなり、建物の設計コンセプトやそれぞれの設備の機能について説明しながら、館内各フロアや外観、バックヤードなどを見学する60分間のツアーです。言わば「建築入門編」のガイドツアーで、対象は小学校5年生以上としています。一方のマスターコースはメインターゲットを高校生以上の建築に関心が高い層に設定した、日本設計の社員による解説付きの90分間のツアーです。メカニカルウェハーや屋上などバックヤードも複数箇所回り、空調設備や免震構造、動線の工夫などについて、専門的知識を持ったガイドから説明を聞くことができます。マスターコースは参加者募集を開始してすぐに定員に達し、初めての開催にもかかわらず注目度の高さがうかがわれました。

開館10周年記念企画のツアーには合計226人が参加し、満足度調査では5段階のうち「とても満足」・「満足」と答えた人が97%となるなど、どのツアーも大変好評を得ました。日本設計との連携事業を最良の形でスタートすることができ、2017年度以降も

その連携が継続・強化されていくことになります。

2回目の建築ツアーが開催されたのは、2017年10月のこと。このツアーでは「スタンダードコース」と「マスターコース」に加えて、夜間開館中のライトアップされた建物を見学する「ナイトコース」を設け、季節や時間帯、天候によって変わる美術館の様々な表情を紹介しました。翌2018年は「六本木アートナイト2018」の特別プログラムとして建築ツアーを開催し、「マスターコース」と「マスターナイトコース」を実施、マスターナイトコースでは国立新美術館の照明デザインを手がけた岩井達弥さんにレクチャーをしていただきました。同年12月にもツアーを開催し、初夏と初冬にツアーを行うサイクルが出来上がり、2019年も5月の六本木アートナイト開催期間中と、12月にツアーを実施しました。

学校の夏休み期間に毎年行っていた「夏休みこどもたんけんツアー～国立新美術館のひみつをさがそう!～」には、2017年度から日本設計のメンバーが「たてものはかせ」役で参加するようになりました。隊長のインターンと隊員の子どもたち、そして「たてものはかせ」とで構成された探検隊がヘルメット



「国立新美術館 建築ツアー2020」運営メンバー



「六本木アートナイト2019」特別プログラム 国立新美術館 建築ツアー2019

をかぶって館内を練り歩く姿は、国立新美術館の夏の風物詩です。要所要所でわかりやすく解説してくれる優しい「たてものはかせ」たちは、こどもたんけんツアーの人気を不動のものとし、探検隊に無くてはならない存在となっています。

こうした日本設計との連携は、2019年度以降、建築ツアー以外のプログラムにも広がっていきました。その一つが、国立新美術館の建築をテーマにしたワークショップです。「ワークショップにも取り組みたい」という日本設計メンバーからの提案をきっかけに始動した企画で、1年近くかけて日本設計のメンバー同士でアイデアを出し合い、制作方法などの検討を重ねて、2020年9月に開催された「免震構造」をテーマにしたワークショップ「国立新美術館のヒミツー地震から人と作品を守る工夫を知ろう!」として結実しました。免震装置の実物大模型を作ったり、開催前日に集まって材料を準備したり、感染対策について知恵を出し合ったり、建築ツアー以上に美術館と日本設計がチーム一体となって取り組む時間の多いプログラムでした。1000㎡の展示室を会場として、ソーシャルディスタンスを十分に確保して行う、

2020年ならではのワークショップでもありました。

また、2020年3月には、「国立新美術館建築ガイドアプリ CONIC(コニック)」が公開されました。CONICは国立新美術館の建築について紹介するウェブアプリで、スマートフォンなどの端末にダウンロードして、建築の見どころに関する解説を読んだり聞いたり、館内のおすすめスポットを巡るツアーを楽しんだりすることができます。建築ツアーに参加しなくても、いつでも・どこからでも建築のアクセスできるツールとして企画開発されたもので、現在30件の見どころを4言語で紹介しています。このCONICの制作においても、日本設計のメンバーからのアイデアや助言が活かされています。

2017年から2019年まで順調に開催実績を重ね、国立新美術館の定番プログラムとなった建築ツアーとこどもたんけんツアーですが、新型コロナウイルス感染症の世界的なパンデミックにより、2020年度の上半期はツアー開催の目処がつけられない状況に陥りました。美術館が臨時休館となり、インターンや学生ボランティアが来館して活動することができず、ツアーガイドの育成がストップしてしまった



「国立新美術館のヒミツー地震から人と作品を守る工夫を知ろう!」運営メンバー

ことも深刻な問題でした。加えて、従来型のツアーでは「三密」を避けられないため、ツアーの実施方法を大きく変える必要も生じました。日本設計チームとはオンライン会議で協議を重ね、ツアーを開催する方法を模索する日々が続きました。

そのような先行きが見えない状況下ではありましたが、「with コロナ」で開催可能な形式のツアーを色々試してみようと企画されたのが、前述のCONICを利用した「国立新美術館 建築ツアー2020 “新しい様式” 編 CONICスペシャルコース」です。参加者はスマートフォンでCONICを見ながら館内を巡り、各フロアにあるチェックポイントで日本設計社員とオンライン対話を楽しみ、ゴールまでにクイズのヒントを集めるという、リアルとオンラインを取り混ぜた新形式のツアーでした。一日のみの開催でしたが、コロナによって中断していた建築ツアーの再開はスタッフにとって明るいニュースで、「三密」を避けて建築ツアーを行うことができるという自信にもつながる出来事でした。

小学生を対象としたこどもたんけんツアーについては、再開までにさらに時間を要し、2019年夏から2年と3か月が経った2021年11月に、「家族でたんけん

編」として開催しました。また、同じく11月には、大人向けの建築ツアーのマスターコースを、1グループの人数を以前の半分に減らして実施しました。一年度中に大人向け・子ども向け両方のツアーを無事開催することができたのは2019年度以来で、本記録集の発刊にも弾みをつけることとなりました。

以上が2017年から開催されてきた建築ツアーの歩みです。この5年間で建築ツアーとこどもたんけんツアーに参加した人は1164人、携わったスタッフはのべ253人にのぼります。一緒に歩んできてくださった方々への感謝の思いとともに、本記録集にその足跡を記して、これからも沢山の方々と協働しながら、魅力的な建築ツアーを作り出していきたいと思えます。



10:50

受付、集合

3階研修室が建築ツアー参加者の集合場所です。まずは受付で、建築ツアーオリジナルのトートバッグと受信機を受け取ります。指定された色のグループの集合場所へ行き、ツアーの開始を待ちます。待っている間、スクリーンには工事中の美術館の写真が映し出されています！



11:00

ツアースタート！ 3階研修室

最初に、国立新美術館のインターンやボランティアが、見学ルートや美術館の概要、設計者について説明します。その後、マイクをツアーガイドの日本設計社員にバトンタッチ。図面や写真を見せながら建築の特徴やコンセプトを解説します。



11:15

1階ロビー、外観

研修室を出て、シースルーエレベーターで1階へ。1階ロビーやコーンを見学した後、外へ出て、ガラスカーテンウォールや傘立てについての解説を聞きます。ツアーガイドは写真パネルなども使って、わかりやすく説明します。



11:25

遊歩道、野外展示場

正門の脇からのびる遊歩道を進んで、建物の裏側へ移動します。野外展示場を見学してから、展示室1Bの中へ！

ある日のマスターコース

スタートからゴールまで



2018年12月に開催された建築ツアーのマスターコースの見学ルートを例に挙げながら、建築ツアーの流れをご紹介します。



11:35

展示室1B

展示室の中では、可動展示パネルや床の空調吹き出し口などを見学して解説を聞きます。



12:30

ツアー終了！ 3階研修室

研修室に戻って、ツアー終了です！ 記念品の缶バッジは、建築ツアー参加者だけがもらえるオリジナル。



12:20

3階アトライブラリー、光壁

屋上の次は、最後の見学場所の3階へ移動。アトライブラリーや、光壁による照明についての解説です。



12:10

屋上

バックヤードからパブリックエリアに戻り、エレベーターで地下1階から4階へと一気に移動します。さらに階段を上って屋上へ！

11:45

地下1階バックヤード

ここからはバックヤードの見学です。大きな作業用エレベーターに乗って、地下1階へ移動。展覧会の準備で使われる設備や、機械類が収納されたメカニカルウェハーを見学します。天井が低いメカニカルウェハーではヘルメットを着用！



国立新美術館は、のべ14,000㎡の国内最大級の展示スペースを有する美術館です。館内には、12の展示室、アトライブラリー、講堂、研修室等があるほか、レストラン、カフェ、ミュージアムショップなどの付属施設の充実も図っています。

「森の中の美術館」をコンセプトに設計された建物の南側は、波のようにうねるガラスカーテンウォールが美しい曲線を描き、円錐形の正面入口とともに個性的な外観を創り出しています。吹き抜けの1階ロビーからは、このガラス越しに、青山公園など地域の緑にとけこむように植栽された草木の四季折々の眺めを楽しむことができます。また、免震装置による地震・安全対策、雨水の再利用による省資源対策、床吹き出し空調システム等の省エネ対策、ユニバーサルデザインへの対応、地下鉄乃木坂駅直結の連絡通路など、様々な機能性を追求した設計となっています。

設計者

黒川紀章・日本設計共同体



黒川紀章 Kisho Kurokawa

1934年、愛知県生まれ。京都大学建築学科卒業後、東京大学大学院に進み、丹下健三研究室に所属。1960年、26歳で菊竹清訓らとともに建築の理論「メタポリズム」を提唱。1962年、黒川紀章建築都市設計事務所を設立。主な作品に、中銀カプセルタワービル、埼玉県立近代美術館、名古屋市美術館、広島市現代美術館、和歌山県立近代美術館・博物館、福井市美術館、ヴァン・ゴッホ美術館新館(オランダ)、クアラルンプール新国際空港(マレーシア)などがある。日本建築学会賞、日本芸術院賞、フランス芸術文化勲章をはじめ、国内外での受賞多数。2006年、文化功労者に選ばれる。2007年10月、73歳で死去。

国立新美術館は、黒川紀章氏が設計した数多くの美術館の中で、氏の生前に完成した最後の美術館である。

開館時に寄せられたメッセージ

国立新美術館は、世界でも有数の企画展示室・公募展示室を合わせ持つ美術館である。10を超える展覧会が同時並行で開催できるよう、作品の搬出入や来館者の動線などあらゆる意味で機能性を重視している。1階ロビーのアトリウムは21.6mの天井高で、透明で大波のようにうねる外壁面が特色である。日射熱・紫外線をカットする省エネ設計でありながら、周囲の森と共生する建築である。いつも人々が訪れ、レストラン、カフェ、ミュージアムショップが、新しい東京の芸術文化のサロンとなることを願っている。



株式会社 日本設計 NIHON SEKKEI, INC.

1967年設立の総合設計事務所。美術館や博物館の設計実績は数多く、独自の設計としては、高知県立美術館、岩手県立美術館、山種美術館、三重県総合博物館、高知城歴史博物館などがあり、他の建築家との共同設計としては国立新美術館の他、長崎県美術館や三井記念美術館などがある。現在も国立新美術館の運営支援企業として、美術館の活動を継続的に支援している。

建築概要

所在地：東京都港区六本木7丁目22番2号

設計監理：黒川紀章・日本設計共同体

施工：鹿島・大成・松村特定建設工事共同企業体、清水・大林・三井特定建設工事共同企業体

着工：2002(平成14)年7月16日

竣工：2006(平成18)年5月31日

階数：地上4階(1階、中2階、2階、中3階、3階、4階)、地下1階

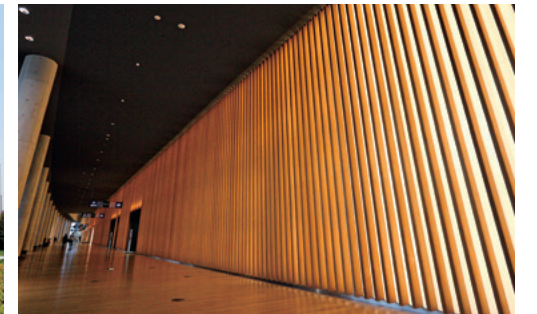
構造：鉄骨造(一部鉄骨鉄筋コンクリート)

建築面積：12,989.56㎡

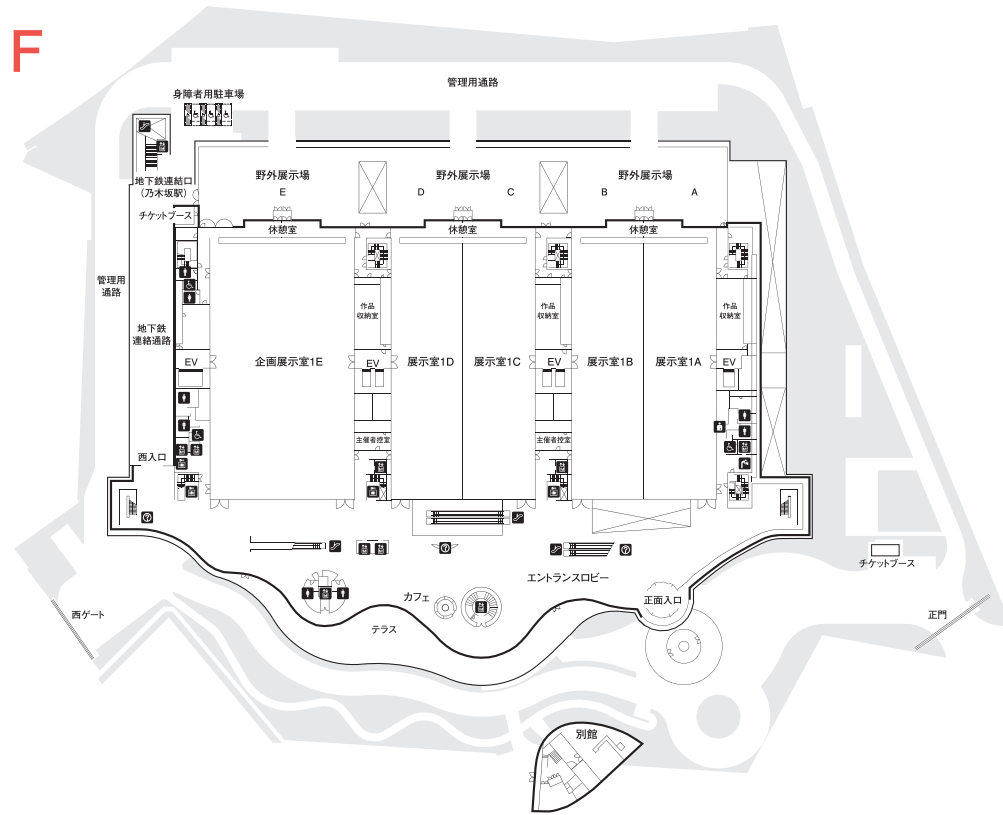
延床面積：49,834.12㎡

国立新美術館の建築や設備に関する受賞

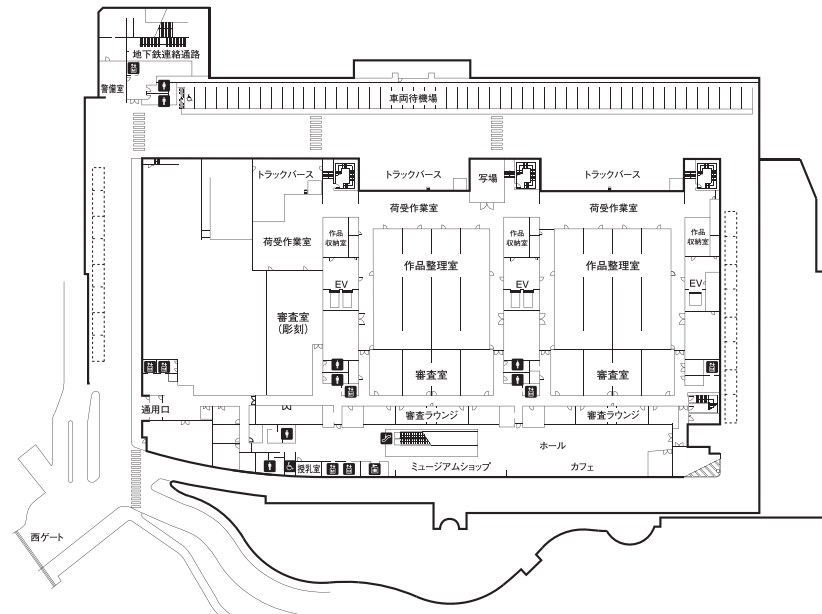
- International Architecture Awards 2006
(The Chicago Athenaeum: Museum of Architecture and Design、2007年)
- 照明普及賞(優秀施設賞)(一般社団法人照明学会、2007年)
- 第8回日本免震構造協会作品賞(一般社団法人日本免震構造協会、2007年)
- 2008年度グッドデザイン賞(公益財団法人日本デザイン振興会、2008年)
- 第49回BCS賞(作品賞)(一般社団法人建築業協会、2008年)



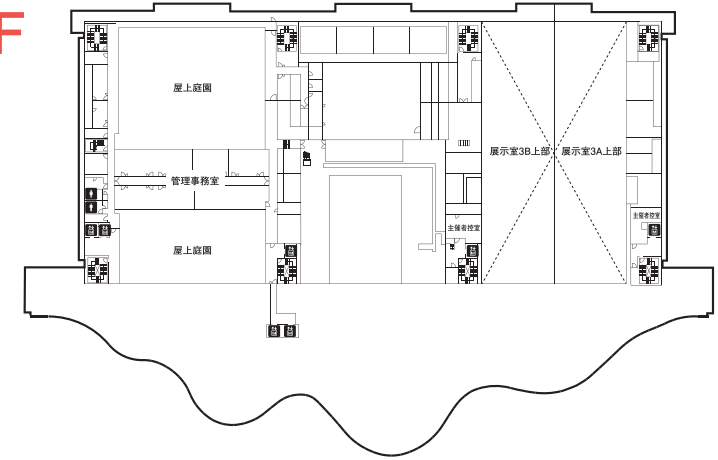
1F



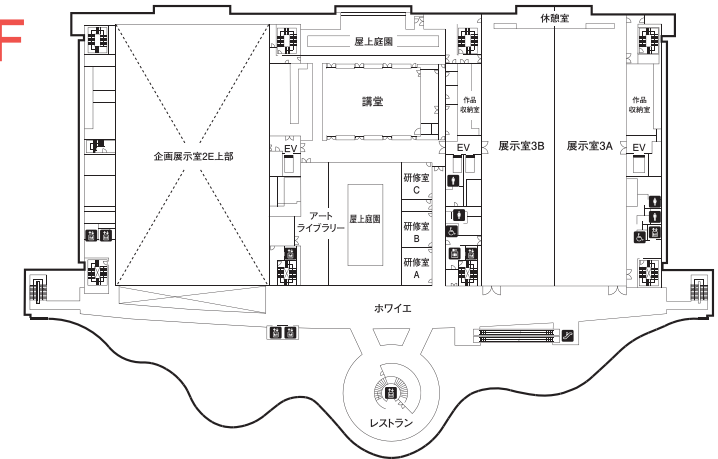
B1



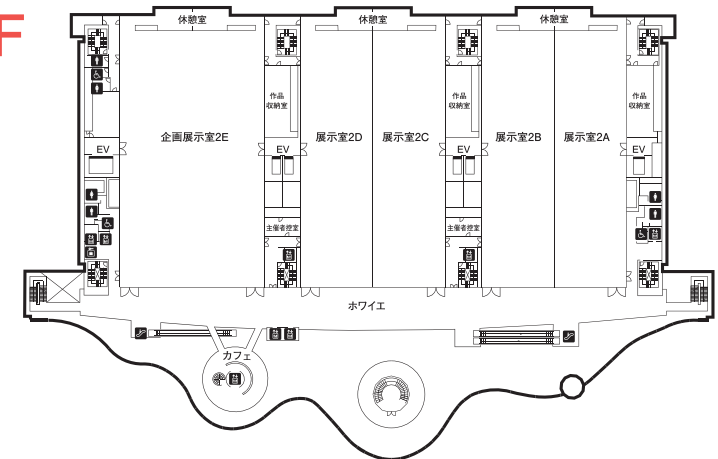
4F



3F



2F



※このほか、右記の施設があります。 ● 中2階 主催者控室(公募展用)3室 ● 中3階 主催者控室(公募展用)3室

1995-1999

平成7(1995)年10月

文化庁が「新しい美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)に関する調査研究会」(平山郁夫座長)を設置し、基本構想についての検討を開始

平成8(1996)年3月

新しい美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)に関する調査研究会が「新しい美術展示施設設立の基本構想」を策定し、文化庁長官に報告

平成8(1996)年12月

文化庁が「新しい美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)に関する基本計画検討協力者会議(平山郁夫座長)を設置し、基本計画について検討を開始

平成11(1999)年3月

新しい美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)に関する基本計画検討協力者会議が、「新国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)基本計画」を策定し、文化庁長官に報告

平成11(1999)年9月

文化庁が「新国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)設立準備委員会」(平山郁夫座長)を設置

平成11(1999)年10月

文部科学省が「新国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)建設コンサルタント選定委員会」(委員長:芦原義信)を設置

2000-2007

平成12(2000)年2月

建設コンサルタント選定委員会が、「公募型プロポーザル方式」により、黒川紀章・日本設計共同体を設計者として選定

平成12(2000)年3月

文部科学省が新国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)の設計業務を黒川紀章・日本設計共同体に委託

平成12(2000)年3月

設立準備委員会において、「基本設計において考慮すべき主要事項」(同施設整備専門委員会)及び「管理運営等に関する主な検討課題」(同管理運営専門委員会)が了承される

平成14(2002)年1月

新国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)の設計業務完了

平成14(2002)年9月

起工式

平成15(2003)年4月

新国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)設立準備室を設置

平成15(2003)年6月

全国公募により、正式名称を「国立新美術館」に決定

新国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)設立準備室を、国立新美術館設立準備室に改称

平成18(2006)年6月

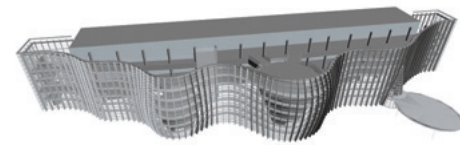
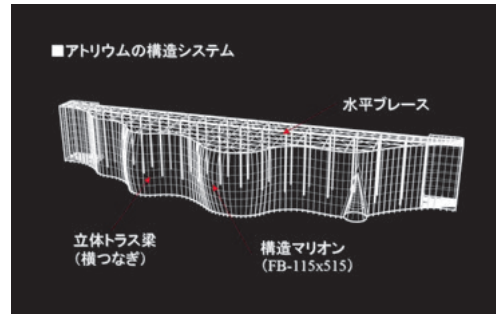
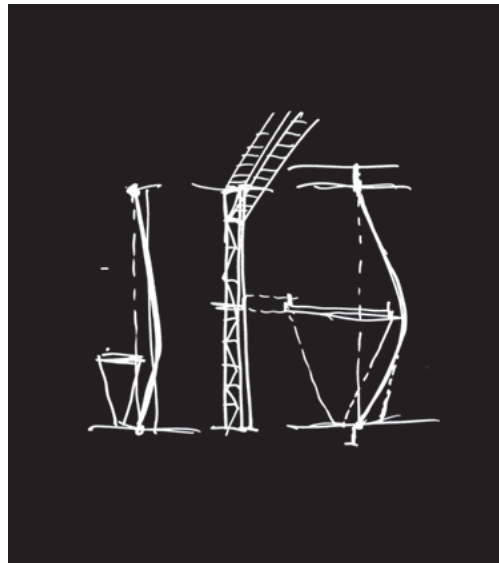
竣工式

平成18(2006)年7月

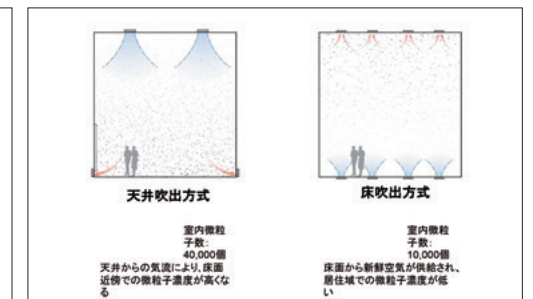
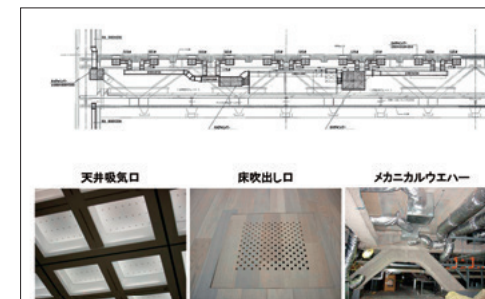
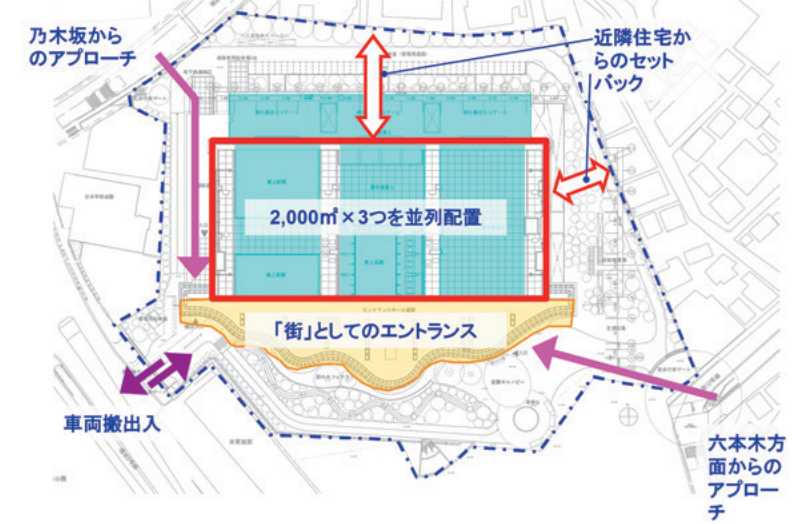
「独立行政法人国立美術館 国立新美術館」として機関設置

平成19(2007)年1月

開館(21日)



敷地周辺環境、人と物の動線、展示空間条件に配慮した建物配置計画



平成28(2016)年度



国立新美術館 開館10周年記念 建築ツアー
歩く・見る・知る美術館

開催日時・コース:

2017年1月20日(金)

① 11:00~12:00<スタンダードコース>

② 13:00~14:00<スタンダードコース>

1月21日(土)

③ 11:00~12:30<マスターコース>

④ 15:00~16:00<スタンダードコース>

1月22日(日)

⑤ 11:00~12:30<マスターコース>

⑥ 15:00~16:00<スタンダードコース>

1月26日(木)

⑦ 13:00~14:00<スタンダードコース>

⑧ 15:00~16:00<スタンダードコース>

1月27日(金)

⑨ 11:00~12:00<スタンダードコース>

⑩ 13:00~14:00<スタンダードコース>

1月30日(月)

⑪ 13:00~14:00<スタンダードコース>

⑫ 15:00~16:00<スタンダードコース>

会場:国立新美術館 館内各所

協力:株式会社 日本設計

対象:<スタンダードコース>小学校5年生以上

<マスターコース>高校生以上

参加費:無料

参加者数:226人(12回合計)

見学場所:

<スタンダードコース>

企画展示室1E / 1階ロビー / 外観(ガラスカーテンウォール、正面入口など) / 2階ロビー / アートライブラリー / 講堂 / 作業用エレベーター / 地下1階バックヤード / 地下1階休憩コーナー / 兵舎模型 など

<マスターコース>

企画展示室1E / 1階ロビー / 兵舎模型 / 外観(ガラスカーテンウォール、遊歩道など) / 地下1階バックヤード(メカニカルウェハーなど) / 作業用エレベーター / 講堂 / アートライブラリー / 光壁 / 屋上 など

平成29(2017)年度



夏休みこどもたんけんツアー2017
~国立新美術館のひみつをさがそう!~

開催日時:

2017年7月24日(月)11:00~12:30

7月26日(水)11:00~12:30

会場:国立新美術館 館内各所

協力:株式会社 日本設計、Moleskine

対象:小学校3年生~6年生

参加費:無料

参加者数:49人(全2回)



チラシ作成:
大岩郁穂(平成29、30年度インターン)

平成30(2018)年度



国立新美術館開館10周年記念 建築ツアー2017
歩く・見る・知る美術館

開催日時・コース:

2017年10月14日(土)

① 15:00~16:00<スタンダードコース>

② 18:30~19:30<ナイトコース>

10月15日(日)

③ 11:00~12:30<マスターコース>

④ 15:00~16:00<スタンダードコース>

10月21日(土)

⑤ 11:00~12:30<マスターコース>

⑥ 15:00~16:30<マスターコース>

10月22日(日)

⑦ 11:00~12:00<スタンダードコース>

⑧ 14:00~15:00<スタンダードコース>

11月17日(金)

⑨ 15:00~16:00<スタンダードコース>

⑩ 18:30~19:30<ナイトコース>

会場:国立新美術館 館内各所

協力:株式会社 日本設計、Moleskine

対象:<スタンダードコース>小学校5年生以上

<マスターコース>高校生以上 <ナイトコース>中学生以上

参加費:無料

参加者数:184人(全10回)

見学場所:

<スタンダードコース>

研修室 / 企画展示室1E(安藤忠雄展会場内) / 1階ロビー / 外観(ガラスカーテンウォール、正面入口など) / 兵舎模型 / 地下1階休憩コーナー / 地下1階バックヤード / 作業用エレベーター / 講堂 / アートライブラリー など

<マスターコース>

研修室 / 企画展示室1E(安藤忠雄展会場内) / 1階ロビー / 外観(ガラスカーテンウォール、正面入口など) / 兵舎模型 / 地下1階バックヤード / メカニカルウェハー / 作業用エレベーター / 講堂 / アートライブラリー / 光壁 など

<ナイトコース>

研修室 / 光壁 / 1階ロビー(コーンの照明など) / 外観(ガラスカーテンウォール、正面入口など) / 企画展示室1E(安藤忠雄展会場内) / 屋上 / アートライブラリー など



「六本木アートナイト2018」特別プログラム
国立新美術館 建築ツアー2018
歩く・見る・知る美術館

開催日時・コース:

2018年5月26日(土)

① 16:00~17:30<マスターコース>

② 19:30~21:00<マスターナイトコース>

会場:国立新美術館 館内各所

協力:株式会社 日本設計

マスターナイトコースゲスト解説:岩井達弥(照明デザイナー)

対象:高校生以上

参加費:無料

参加者数:56人(全2回)

見学場所:

<マスターコース>

研修室 / 光壁 / アートライブラリー / 屋上 / 企画展示室2E(「こいのぼりなう!」展会場内) / 1階ロビー / 外観(ガラスカーテンウォール、正面入口など) / 地下1階バックヤード / メカニカルウェハー / 作業用エレベーター など

<マスターナイトコース>

研修室 / 企画展示室2E(「こいのぼりなう!」展会場内) / 光壁 / 1階ロビー / 正門脇遊歩道(舗石) / 野外展示場 / 地下1階バックヤード / 屋上 / 3階ロビー(レストラン) など

平成30(2018)年度



夏休み子どもたんけんツアー2018
～国立新美術館のひみつをさがそう！～

開催日時:
2018年7月30日(月)10:30～12:30
8月1日(水)10:30～12:30、15:00～17:00
会場:国立新美術館 館内各所
協力:株式会社 日本設計
対象:小学校3年生～6年生
参加費:無料
参加者数:68人(全3回)



チラシ作成:
中村公彦(平成30年度インターン)



国立新美術館 建築ツアー2018
歩く・見る・知る美術館

開催日時・コース:
2018年12月7日(金)
① 11:00～12:00(スタンダードコース)
② 14:00～15:00(スタンダードコース)
12月8日(土)
③ 11:00～12:00(スタンダードコース)
④ 14:00～15:00(スタンダードコース)
12月9日(日)
⑤ 11:00～12:30(マスターコース)
⑥ 15:00～16:30(マスターコース)
会場:国立新美術館 館内各所
協力:株式会社 日本設計
対象:(スタンダードコース)小学校5年生以上
(マスターコース)高校生以上
参加費:無料
参加者数:142人(全6回)

見学場所:
〈スタンダードコース〉
研修室 / 1階ロビー / 外観(ガラスカーテンウォール、正面入口、別館など) / 展示室1B / 作業用エレベーター / 地下1階バックヤード / 地下1階休憩コーナー / 3階ロビー(レストラン、アートライブラリー) など
〈マスターコース〉
研修室 / 1階ロビー / 外観(正面入口、別館、ガラスカーテンウォールなど) / 正門脇遊歩道(舗石) / 野外展示場 / 展示室1B / 作業用エレベーター / 地下1階バックヤード / 屋上 / 3階ロビー(光壁、レストラン、アートライブラリー) など

平成31/令和元(2019)年度



「六本木アートナイト2019」特別プログラム
国立新美術館開館 建築ツアー2019
歩く・見る・知る美術館

開催日時・コース:
2019年5月25日(土)
① 16:00～17:30(マスターコース)
② 19:30～21:00(マスターナイトコース)
会場:国立新美術館 館内各所
協力:株式会社 日本設計
マスターナイトコース ゲスト解説:岩井達弥(照明デザイナー)
対象:高校生以上
参加費:無料
参加者数:53人(全2回)
見学場所:
〈マスターコース〉
研修室 / 展示室2A(「三軌展」会場内) / 1階ロビー / 外観(ガラスカーテンウォール、正面入口など) / 地下1階バックヤード / メカニカルウェハー / 作業用エレベーター / アートライブラリー / 光壁 / 屋上 など
〈マスターナイトコース〉
研修室 / 展示室2A(「三軌展」会場内) / 1階ロビー / 正門脇遊歩道(舗石) / 野外展示場 / 地下1階バックヤード / 屋上 / 3階ロビー(レストラン) / 光壁 など



夏休み子どもたんけんツアー2019
～国立新美術館のひみつをさがそう！～

開催日時:
2019年8月8日(木)10:30～12:30
8月9日(金)10:30～12:30、15:00～17:00
会場:国立新美術館 館内各所
協力:株式会社 日本設計
対象:小学校3年生～6年生
参加費:無料
参加者数:67人(全3回)



チラシ作成:
塚田 匠(令和元年度インターン)

平成31／令和元(2019)年度



国立新美術館 建築ツアー2019
歩く・見る・知る美術館

開催日時・コース:

2019年12月14日(土)、15日(日)

- ① 11:00～12:30<マスターコース>
- ② 15:00～16:00<スタンダードコース>
- ③ 11:00～12:00<スタンダードコース>
- ④ 15:00～16:30<マスターコース>

会場:国立新美術館 館内各所

協力:株式会社 日本設計

対象:<スタンダードコース>小学校5年生以上
<マスターコース>高校生以上

参加費:無料

参加者数:105人(全4回)

見学場所:

<スタンダードコース>

研修室 / 1階ロビー / 外観(ガラスカーテンウォール、正面入口など) / 展示室1D(「雪舟国際美術協会展」会場内) / 乃木坂駅連絡通路 / 地下1階バックヤード / アートライブラリー / 光壁など

<マスターコース>

研修室 / 1階ロビー / 展示室1D(「雪舟国際美術協会展」会場内) / 外観(ガラスカーテンウォール、正面入口など) / 正門脇遊歩道(舗石) / 野外展示場 / 地下1階バックヤード / メカニカルウェハール / 作業用エレベーター / アートライブラリー / 光壁 / 屋上など

※2020年3月30日(月)に開催を予定していた「春休みこどもたんけんツアー2020～国立新美術館のひみつをさがそう!～」は新型コロナウイルス感染症の影響により開催延期となった。

令和2(2020)年度



国立新美術館 建築ツアー2020
“新しい様式”編 CONICスペシャルコース

開催日時:

2020年10月25日(日)11:00～16:00 ※所要時間:1時間程度

会場:国立新美術館 館内各所

協力:株式会社 日本設計

対象:どなたでも

参加費:無料

参加者数:33組64人

見学場所:1階ロビー / 正面入口 / コーン / シースルーエレベーター / 展示室2E 空調 / 光壁 / エスカレーター / 研修室 / レストラン、カフェ / 館内6か所のチェックポイント

令和3(2021)年度



こどもたんけんツアー2021
～国立新美術館のひみつをさがそう!
家族でたんけん編～

開催日時:

2021年11月3日(水・祝)10:00～17:00 ※所要時間:1時間程度

会場:国立新美術館 館内各所

協力:株式会社 日本設計

対象:小学生とその保護者、家族

参加費:無料

参加者数:33組106人



国立新美術館 建築ツアー2021
歩く・見る・知る美術館

開催日時・コース:

2021年11月21日(日)

- ①10:30～12:00<マスターコース>
- ②11:00～12:30<マスターコース>
- ③11:30～13:00<マスターコース>
- ④14:00～15:30<マスターコース>
- ⑤14:30～16:00<マスターコース>
- ⑥15:00～16:30<マスターコース>

会場:国立新美術館 館内各所

協力:株式会社 日本設計

対象:高校生以上

参加費:無料

参加者数:44人(全6回)

見学場所:講堂 / 2階ロビー / 企画展示室2E / 1階ロビー / 外観(ガラスカーテンウォール、別館、遊歩道など) / 地下1階バックヤード / メカニカルウェハール / 作業用エレベーター / 光壁 / 屋上など

建築ワークショップ 開催記録

令和2(2020)年度



国立新美術館のヒミツ

— 地震から人と作品を守る工夫を知ろう! —

開催日時:

2020年9月22日(火・祝)11:00～13:00、15:00～17:00

講師:株式会社 日本設計社員有志

会場:国立新美術館 展示室3B 他

協力:株式会社 日本設計

対象:小学3年生以上(ただし、小学生は保護者同伴)

参加者数:55人(全2回)

建築ツアー5周年を記念して
座談会をオンラインにて開催。
日本設計の方々とともに
5年間を振り返りました。



令和3(2021)年11月6日(土)19:30~21:30
(オンライン)

出席者

○株式会社 日本設計

内田幸子
須賀貴康
廣畑佑樹
牧野寛
山下博満
Robert Dwiputra

○国立新美術館

真住貴子
吉澤菜摘

吉澤 建築ツアーをスライドにまとめましたので、一緒に振り返りながら進めてまいりましょう^{※1}。
真住 開館10周年のときに始まり、来年の1月で15周年です。



① 国立新美術館10周年記念建築ツアー(2017年1月)

山下 2017年が最初でしたっけ(①)。この前の年にも開催した気がするのですが。
吉澤 この前の年に、こどもたんけんツアーなどに日本設計のみなさまがガッツリ関わることができないかとお話をいただいたので、2016年夏のこどもたんけんツアーにも何人か日本設計の方に参加いただきました。そのあとチームができていって、それでは10周年記念に建築ツアーをやりましょうということになったのだと思います。
山下 ああ、そうでしたね。日本設計側の話をさせていただくと、2017年が日本設計の創立50周年でして、その数年前から50周年記念に何かやろうという委員会の中で、社会的なことをやろうと、清水里司さんと岡田曜子さんが意見を出してくれました。では何をやろう

かと委員会で模索していたときに、ご縁があった新美(国立新美術館の略称)さんとやることになった。それが2016年だったかな。

吉澤 そうですね。私は当時の当館の総務課長から、日本設計さんから何か一緒にやりましょうというお話があると聞きました。

山下 50周年で社会貢献とは別に、日本設計が主体になって人を集めてレクチャーする、think+(シンクプラス)セミナーをやりようと言っている人たちもいた。それで200人くらい収容できる会場はないかと探しているときに、独立行政法人国立美術館のファンドレイジング担当の方が、前職の時ご縁のあった私を訪ねて来られて、その方に実は50周年でこういうことやりたいんですよとお話ししました。美術館の方は、ファンドレイジングで事業を創造したい、お金を集めたいということだった。国立美術館の施設は全部で6つでしたっけ？

吉澤 今は7施設です。

山下 その方からいくつか施設の候補が示されて、そのうちの一つが新美さんだったんですね。年にいくらか寄付をして、運営支援企業になることで、新美の講堂をセミナーの会場として年2回使えて、展覧会のチケットをいただいたり、新美の1階ロビーのモニターに日本設計のロゴマークが映されたりする^{※2}。そのほかにも、新しくワークショップをやりたいという社内提案をお伝えしたら、一緒にやってみませんかとお誘いがありました。それで清水さんと岡田さんと話を聞きに行ったんですよね。そこで「こどもたんけんツアー」とい



うのがあるというので、まずは僕が参加してみたいです。で、うちの社員が役に立てそうだとということになりました。2016年の夏が最初だったと思います。

吉澤 はい、ご協力のお話をいただいて、それならば、こどもたんけんツアーに関わっていただくのはどうかというところから、話が進んでいったように思います。

真住 そのあと、2017年の美術館の10周年でも何かやろうという話になって。

山下 それが大人に向けた建築ツアーですか。

吉澤 そうですね。10周年のときの、12回行ったツアーです。

山下 スタンダードコースとマスターコースがあった。前からあったツアーではなかった？

吉澤 この国立新美術館が開館する前の2006年9月に、プレオープニング企画で建築ツアーをやっていて、そのときは新美のスタッフやインターンがガイドをしていました。それっきりやっていないくて、10周年で大人向けのコースを10年ぶりにやってみようということになって、それで「マスターコース」という日本設計のみなさんが解説するコースを作りました。

山下 ちょうど時期も良かった。双方が何かやろうと思っていた、いいタイミングでしたね。

吉澤 それで、2016年の12月に、ツアーガイドの研修をやって、練習を重ねて、10周年記念のツアーに至るという感じですね。

山下 そのときは日本設計には、新美の建設のときに設計チームを引っ張っていた柴草哲夫さんもいて、(ツアーガイドの研修用の)スライド

を作ってくれたり、いろいろ担当者しか知らないことを教えてくれたりして、小ネタが集まったわけですね。

吉澤 小ネタを集めて行いました。10周年のツアーの成功により、この年の10月にも全10回のツアーを行いました。マスターコースの申し込み受付を先着順にしたら、申し込みが殺到して、メールサーバーが機能しなくなってしまい、結局申し込み者一人一人に電話をかけて説明するという大変な作業があったのを覚えています。

真住 ものすごい人気だったんですね。

ロバーツ 僕が初めて参加したときですね。入社1年目の2017年9月頃に手を挙げてチームに入った、一番最初のツアーです。



②「六本木アートナイト2018」での建築ツアー(2018年5月)

吉澤 こちらの写真(②)は、照明デザイナーの岩井達弥さんにゲストに来ていただいた、2018年の六本木アートナイトでのツアーです。「マスターナイトコース」という、岩井さんのレクチャー付きのコースをやっていたときですね。

このとき、舗石が敷き詰められた遊歩道を歩くことにしたんですね。私はここには全然注目していなかったんですけども、下見のときに日本設計の方が、「すごく雰囲気がいいから、ここを通るルートにしましょう」ということで、ルートに加わったんです。その後のツアーでは結構ルートに入れています。

真住 あそこを歩くのは、やっぱり評判がいいですね。

吉澤 その次が2018年12月のツアーですね。日本設計のメンバーが秋に入れ替わるので、秋に新しくメンバーになった方が、冬のツアーに初参加することが多いです。2019年もアートナイトでマスターコースとマスターナイトコースをやっています。2019年の12月にも開催して、そのあとからコロナで、対面できなくなりました。それで建築ツアーが復活したのが、2020年の「新しい様式」編^{※3}。このときに、床空調の上でぐるぐる回る渦巻き模様の紙を作りました。これが今も大活躍で、小学生が施設見学に来たときに渡すと、子どもたちがすごい大騒ぎして回しています。

山下 それを見た一般のお客さんも、美術館のパンフレットを回していましたよ。

真住 「建築ガイドアプリ CONIC」も作ったということで、それも利用しましたね。

吉澤 そうですね。CONICの1日の利用者数が最高を記録した日でした。



③ 夏休みこどもたんけんツアー2019(2019年8月)

吉澤 こどもたんけんツアーの話に戻りますが、2019年の夏に行って(③)、こんなに温暖化が進むと夏開催はもう無理だろうという話になって、2020年は本当は春休みにやる予定だったんですけど、それがコロナできなくなり、ずっと流れ流れで先日(2021年11月3日)のたんけんツアーで復活、となりました。

真住 2年ちょっとぶりでしたね。

吉澤 そうですね。2年3か月ぶりぐらいですね。渡瀬誓さんが初めてのたんけんツアーですね。廣畑さんも初めてのたんけんツアーでしたか？

廣畑 こどもたんけんツアーは、一回引き連れていくのをやりましたよ。コロナ前に。

吉澤 じゃあ2019年のツアーですね。

廣畑 そうですね。コロナ直前ですかね。

内田 そうそう、それ廣畑さんが子どもたちに人気で、一緒に写真撮ってくださいとか言われていました。

廣畑 群がってくれました。



吉澤 去年は免震構造のワークショップ(④)も実施できて、ワークショップで作った模型を CONIC のツアーで利用したりしましたね。

真住 まだこの大きな免震の模型はあるんですか？

吉澤 それか、立てかけておいたら、ある日見たら、全部分解していました。残念。部品はあるので、くっつけたらまたできるかも。



④ ワークショップ「国立新美術館のヒミツ-地震から人と作品を守る工夫を知ろう！」(2020年9月)

真住 免震構造のスリットの内部には、入れました？ あそこは、さすがに一般の方は入れないのですが、みなさまの中にはもぐって入って、免震装置を見られた方がいらっしゃると思います。

内田 はい。免震装置やメカニカルウェハーの見学も日本設計のメンバーが一番楽しんでます。床の空調吹き出し口の蓋を開けたとき、奥に見える暗闇がメカニカルウェハーにつながっているというのを、参加者にどう伝えることができるのか、ほんとに伝わってるかなと、いつもうまく伝えたいと思ってしゃべっていました。

吉澤 日本設計のみなさんは社内の掲示板みたいなもので、スタッフを募られたりするのですか。それとも人の紹介でこのチームに入ってもらえるんですか？

内田 年次ごとに社内用のポータルに載せて募集をかけます。一応年次ごとなので、任期は1年、2年でしたっけ、で終わるんですけども、交代せずにだんだんだんだん裾野が広がっている感じです。それが面白いなと思ってるんですけどもね。

ロパーツだったり、今は東條さんのような、その年次ごとに美術館さんとコンタクトをとる主担当がいて、Microsoft Teamsで社内にも連絡をしています。こんなツアーがあります、など連絡をして情報を広げています。

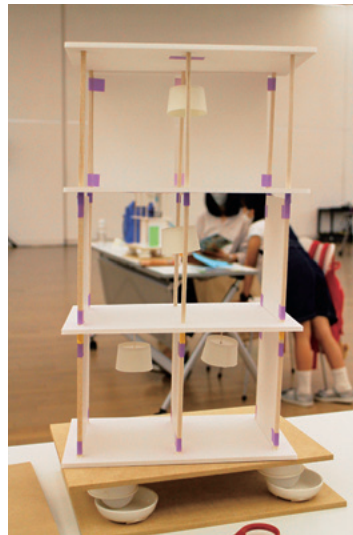
吉澤 今聞いていて思ったのは、入れ替わらずに、残ってくださる方もいて安心する部分もあるし、毎年誰かしら新しい方が入ってきてくださるのも嬉しくて、建築ツアーはもう5年になりますけど、そうした人の繋がりがあるのもいいなと思います。

真住 ロパーツさんが入ってきて急に構造について詳しくなったりとか、そういうみなさんの専門を活かした説明をしてくださるので、建築ツアーの中に我々も知らなかった知識がどんどん増えていくということもありますね。

内田 社内でも普段はプロジェクトごとに交流があるものですが、建築ツアーではプロジェクト以外での交流ができて、お互いの専門分野外にも知恵を出しあう機会となっているので、楽しんでいます。

意外にも、免震構造のワークショップの基本形(⑤)を考えたのは、インテリアの牧野なんです。ロパーツの情熱でどうにかして免震構造を説明したい。けれども映像を使っても動画を使ってもだめ、やはり実際に動かして見せないと伝わらない。昼休みに集まって相談しても結論が出ず、一度暗礁に乗り上げかけたのですが…。

牧野 みんなでどうにかできないかと話していたときに思いついてね。



⑤ ワークショップで制作した免震台と建物の模型

ロパーツ 僕が先輩の方々に宿題を出しました。僕一人では無理なので、みなさんよろしくお願ひしますって投げてね。そしたらみんながアイデア出してくれて、牧野さんのが一番作りやすくて。

牧野 100均で材料を買ってきて。

内田 あの小皿の縁のカーブが絶妙なね。ロパーツそうですね。あれがすごかったですね。

建築ツアーのチームには僕は自ら手を挙げて参加したんですけど、最初は、構造が専門なのは自分一人だから、構造のことは自分でやんなきゃいけないと思ってたんですが、どうしようどうしようと思って…。でもみんなにポンと投げたら、意外と自分以外の方が出来たりとか、説明も上手だったりする時があるんですね。あ、そんな感じで見るんだなって気づかされました。逆に、僕も建築の説明はどうか、設備の説明はどうかとか、一緒にみんなでやるのがすごく楽しかったです。もちろん専門に強みはあるけれども、そこまでこだわらなくていいんだなって、この活動を通してすごく勉強になりました。

牧野 自分はインテリアの部署にいますけど、建築に興味を持ってこの会社に入っているわけだし、仕事以外でほかのセクションの人と交流できたり、若い人たちと話す機会があったり。構造の若い人とか普段あんまり交流がなかった人たちと交流できたりしたことが、良かったと思いますね。

真住 私たちも免震構造ってお客様にいろいろな場面で説明するんですけど、言葉で説明しても分からないですよ。やっぱりものを見せて揺らしてみても、揺れが逃げているというのが目に見えるのがすごく分かりやすいと思います。あのピンポン玉とお皿を回すというアイデアは、他でもまだいろいろと使えそうだなと思いました。



牧野 あのワークショップは、続けていっていただいてもいいかなと思います。建物が動く感覚って、一般の人にしてみたらすごくびっくりなことで、みんな思いもよらないと思うのですが、それをリアルに見せるというのは、目玉かな。他にもいろいろあると思いますよ。動きを自分で体験して、動かして理解するというのは、新美ならでは体験だったりするので、そこは永久保存版ですね。

真住 ありがとうございます。著作権を主張しないでいただきたいです(笑)。

山下 実用新案としておいた方がいいんじゃない(笑)。

山下 今話を聞きながら、真住さんと吉澤さんには、日本設計はどう見えるかな、とふと思いました。僕は建築とか都市計画なんですけれども、ロパーツさんや東條さんは構造設計で、内田さん・牧野さんはインテリア設計と、普段仕事していると専門があるんです。専門のことは安心してお任せできるのですが、ロパーツさんに設備設計してとか絶対に言わないし、基本的には別のものだと思ってるわけですよ。でも外から見ると、日本設計の人なら建築に関してすべて分かるだろうって見えるんですかね。僕は実は、今まで残ってるのは、すごく心配が残ってるんです。構造が専門のロパーツさんが床吹き出しの説明できるのか？とか(笑)。どうですかね、外からご覧になって。

吉澤 やはり最初は、みなさん全部にお詳しいんだと思ってたところはあったんですけど、何

回かご一緒させていただいて、この件はこの方が詳しいとかが分かってきました。例えば下見で一緒に回らせていただいたときも、空調の話になったら、ある方が急にすごい話し始めるというようなことがありました。それで専門分野がそれぞれあるということが理解できるようになりました。ワークショップの企画が始まったときに、みなさん別々のお仕事をされているのに、昼休みとかに集まって企画会議をされていたことを知って、すごくそれがいいなと思ったんですよね。建築ツアーだと自分の専門分野以外は、シナリオだったり、人に教わったことを話すことになるのですが、ワークショップになると誰がどうとか関係なくアイデアを出し合えるので、ワークショップは日本設計のみなさんのチーム内の関係も深まるきっかけだったのかなと思っておりました。

真住 私もみなさんは「建築博士」だと思っていたので、何でも知っているって感じだったと思うんです。でも、学芸員もそうなんですけど、西洋美術が専門、現代美術が専門というように分かれています。今の専門分野のお話も、なるほどそういうことなのかなとは分かたりするのですが、ただやっぱり、学芸員は美術全般について一般の人よりは詳しいので、日本設計のみなさんも建築全般の興味や関心が高いと思います。だいたい一般の人が疑問に思うことぐらいだと何でもお答えいただけて、建築全般についての知識をお持ちだろうと思っています。いつもいろんなお話を聞いていて

勉強になりますし、お昼休みに集まってアイデア出しとか、もうありがたいやら、嬉しいやらで、こっちもがんばらなきゃという感じになりますね。あと、みなさんが本当に熱心に取り組んでくださるので、それは本当にありがたいですね。それこそ、連れてこられた子どもみたいに嫌々やらされているとかでは全然なくて、自発能動なことが伝わってくるので。

山下 社内で公募をかけて手を挙げた人しかやっていないので、そういうことなんですよ。

牧野 強制されてるわけではないですからね。みんな好きでやってるので。



© こどもたんけんツアー-2021 (2021年11月)

山下 意外と私はリフレッシュになってるんです。この間のこどもたんけんツアー(⑥)も、ものすごく忙しくて寝不足で疲れていたんですけど、朝、突然参加することにして申し訳ございません。

真住 いやいや、ありがたかったですよ。

山下 自分のリフレッシュのために行きました。

吉澤 ありがとうございます。さっき心配して残っ

ているとおっしゃっていたんですけど、私は山下さんがずっといてくださるのが心強いので、ずっと心配して残っていて欲しいと思っています。

山下 当日は3人だけしか参加できないと聞いて、しかも新人さんが一人いたのでしたっけ。

吉澤 渡瀬さんが今回初めてでした。

山下 というのも気にはなっていたんですけど。一番の理由は自分のためでした。

真住 たんけんツアーは計画してはコロナでリスクになっていたのが、回数とか経験とかを積んでいただきたくてもなかなかできなくなってしまっているのが、もどかしくはあるんです。先日(2021年11月3日)のたんけんツアーのやり方は、結構いけるなというのも感触としてつかんだし、ニーズは相変わらず高いです。ニーズがあることに応えられるというのも嬉しいですよ。普段いろいろなワークショップをしていて、ワークショップ全般の人気というのもあるんですけど、やっぱり建築ツアーというのは特別な感じがあって、ピンポイントで人気が高くて、その人気落ちないとか日増しに上がるのが、手ごたえとしてあるというのは、すっかり新美の活動の軸になったなというふうに感じています。

内田 リピーターの方もいらっしゃるんですよ。

吉澤 そうですね。ツアーのリピーターの方もいらっしゃるし、前にワークショップに参加した子どもが、今度はたんけんツアーに来るとか、建築ツアーに参加した大人が別のワークショッ



プに来るとか、そういう感じのリピーターの方もいます。

真住 スタンダードコースは参加したから、次はぜひマスターコースをとという方もいらっしゃるし、マスターコースは参加したことがあるけどナイトコースは初めてだとか、あらゆるコースの情報が欲しいみたいな熱心な方もいます。たまたま今日、中学生と高校生が「庵野秀明展」を観に来てくれたのですが、施設ガイドダンスもさせていただいて、先生から「この建物のファンの子がいるんですよ」と言っていたので、それががんばらねばという感じでしたね。建物のファンに中高生でなるのは、私としては意外だったのですが、そういう建物なんだということが改めてわかりました。こどもたんけんツアーに来てた子が、そのうちインターンとかになってくれたりしたら泣いちゃいます。

内田 日本設計の門を叩いてくれたらそれも最高です(笑)。

吉澤 建築ツアーを始めたときは、企業連携ということをすごく意識していたんですけど、人材育成のプログラムにもなっていて、サポート・スタッフという学生のボランティアやインターンの学ぶ場にもなっていて、一つの事業だけで企業連携と人材育成とがダブルでできていて、外部評価委員会にアピールするときありがたい事業でもあります。

山下 美術館のサポート・スタッフやインターンは、建築ツアーをやって役に立ってるのか、嫌々



やっているのかは、どうですか？

吉澤 美術館のスタッフも、基本的にはやりたい人に手を挙げてもらってやっているの、やる気のある人たちが参加してくれています。研修を受けて、あと何回か練習にも来てもらってというふうに運営しています。建築ツアーもこどもたんけんツアーも参加したスタッフはみなさんいつも楽しく勉強になったとおっしゃってくださいます。最近ではできないですけど、日本設計のみなさんとの懇親会でもいろいろお話しできて良かったという感想も多くて、参加したいという人が多いという感じですね。

ロバーツ 新美さんと一緒にやっていると、サポート・スタッフの方もインターンの方も毎回代わっているし、あとは参加する方もリピーターも、リピーターじゃない人もいる中で、毎回同じことやっても、毎回感触が違うんですね。それはそれで面白いなと思います。あ、今回はこういうところで話が集中してまとまっているとか、今回はこういうところを見て感動するんだとか。毎回毎回人によって違うところに興味を持つので、それぞれの説明が大事なんだなと思いました。ここは大事じゃないから省こうとかではなくて。ツアーではいつも時間が足りない、時間が足りない、どうしようとなっていますね。

内田 あとやはり、「博士」っていう称号を、「ごっこ」にしてももらっていることに対して、自分の専門以外のことも勉強してちゃんと答えられるようにと、みんな思っています※4。

ロバーツ プレッシャーがありますね。

山下 僕はね、「たてものはかせ」という名前がいまだに嫌ですね。小学生相手とはいえ、博士というのはすごく恥ずかしいなと思ってやっています。この間のたんけんツアーでも、子どもから「あなたが博士ですか」とか聞かれるわけ。どう答えたらいい？(笑)

吉澤 そこはもうなりきっていただいて(笑)。

内田 そういう意味では、今年のツアーガイドの研修をやったときの様子を見て、吉澤さんもう博士だなと思いました(笑)。

吉澤 iPadを使ってオンラインで行ったガイド研修ですね。

内田 吉澤さんが館内を巡って解説するときに、質問があったら答えられるように私たちも待機して見ていたのですが、ほぼ完璧でしたよね。

ロバーツ それ僕も思いますよ。やっぱり知識って身に付くものだなって思いますね。

吉澤 さも知っているかのように説明してみせていますが、開館前にやった建築ツアーも含め、全部日本設計さんや鹿島建物さんに教えてもらって覚えてきたものなので。それでも毎回教えていただくことがありますね。そうなんだ！って。今でもいろいろ情報メモに足しています。

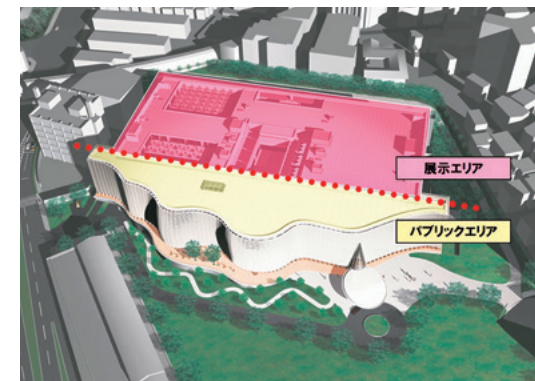
牧野 建築って、掘り下げればいくらでも掘り下げられますからね。そこが面白いとこなんですよけどね。

内田 毎回ツアーのグループの空気感が違うじゃないですか。参加者の興味も違うし、バックボーンも違うし、同じものに対しても刺さる角度

が違うから、私たちもまたそこで新たな発見もあるし、進化もしなきゃというきっかけになるんでしょうね。

牧野 そういう点で、リピーターもありがたいかもしれないですね。リピーターは常に新しいことを聞いてみようって、ネタを待っているわけだから。

吉澤 そうなんですよね。CONICも作っちゃったから、CONICに載っていないネタを建築ツアー用に絞り出すのが大変で、自分で自分の首を絞めているみたいです※5。



⑦ エリア分けのCGイメージ

須賀 リピーターが多かったり、人数が増えたりということにつながるとは思うのですが、国立新美術館の建物は奥が深いというか、謎や「？」が多いですよね。普通の美術館よりも大きさもそうだし、周辺環境もそうだし、建築的にも謎の階のメカニカルウェハーとか。そこが、ツアーにすごく適しているなと思います。さらに、その派生形で次々とマスターコース

ができたり、ナイトコースができたり…。展開に理由があるというか、この美術館ならではの事なんだなと思いました。

内田 設計プラン(⑦)も明快ですね。1階ロビーにいて、展示室があって、ガラスのファサードがあって、外には自然があって、自分がツアーで見学してきたものが全部一望できるという、単純明快な見え方を。一方で、奥深さもあるというところが非常にいいですね。迷路のような建物の中をただ行くだけのツアーだったら、復習できないですね。あとで腑に落ちないというか、一時の知識で終わっちゃう。それがこの建物では、また別の機会に訪れたときにも、ああそうだなって、ツアーのときの知識を繰り返し符合させることができる、そういう建物ですね。

吉澤 そうですね。いまだに飽きないですからね。まだ見ていなかったポイントがあるなど、いつも感じながら建物の中を回っていますね。

山下 まあ設計が上手だったということでしょうね。

吉澤 ですね。術中にはまっているんですね。

須賀 他の美術館からも見学に来られる方や視察に来られる方がいらっしゃるって聞いたのですが、新美のツアーの評判はどうですか。

吉澤 そうですね。他の美術館からこのツアーを視察にこられる方も時々いらっしゃいます。だから結構やっていることは知られてきているのかなという実感もありますし、企業連携がうまくいっている例として紹介されたりすることもあります。



山下 そういえば日本設計では、社内で賞をもらいましたよね。

内田 そうですね。今年の7月に、皆で社内の賞：ベストプラクティス賞に応募して特別賞(⑧)を受賞しました。

日本設計の企業理念にthink++(シンクプラス)というものがあります。設計事務所だから考える(シンク)ことが仕事なんですけども、そのシンクに対して一つ目のプラスというのが自分たち私たち設計者が考えるプラス、それに対してお客様とプロジェクトに関わる人との協働ということで二つ目のプラスがあり、未来の価値をみんなで作り上げましょうという理念です。それに対してそれぞれの

プロジェクトだったり、自分の部署での取り組みについて、会社が評価するという機会です。評価点は、50周年の記念事業にとどまらずに年次を重ねて、それをまた新たな活動につなげたり、活動の幅を広げたりしたことによって、日本設計としても建築に興味を持つ人や目指す人が増えることにつながるのではないかとということで評価されました。

本来は、主に実際のプロジェクトに対しての賞なのですが、ボランティアに対しての評価としては初めてということでした。

山下 特別賞というのも初めてだね。

内田 はい、初めてでした。賞をもらったときには、価値ある継続をしているねと社長から言われました。

内田 これが、応募するときに作った資料です(⑨)。イラストbyロパーツ。

「進化する絆のカタチ」という書き方をしたのですが、どういうことかという、もともと新美さんは、私たちのクライアントであって、私たちは設計者という立場。本来のそういう立場が進化してお互いに新しい価値を作る、新しい教育プログラムを通しての社会貢献という形を作っていますということですね。

ロパーツイメージ図はすごくこだわっています。パズルがあって、みんなそれぞれ専門も違うし、バックグラウンドも違うし、考え方も違うなかで、それが形を崩すことなく、どんどん成長していくということを表しました。最終的な形は見えていないから、いつまで進化できるんだろうというのが、すごく楽しみです。

真住 ありがとうございます。これは嬉しいですね。

山下 よかった。お見せして。

真住 過去のスタッフのみんなにも教えてあげたいと思います。

真住 建築ツアー記録集もこういう評価に先々つながればいいなと発案したところもあったのですが、先にご評価いただいたちゃったという嬉しいことが起こりました。

内田 そういう機会があったからなのですが、改めて自分たちがやっていることはどういうことなんだろう、ということを考えるいいきっかけになりましたね。これはさっき言ったメンバーが資料を作りましても、それ以外の参加メンバーやOBにも声をかけて、何回か全体ミーティングしてディスカッションしたりもしましたね。

真住 そうでしたか。ありがとうございます。

山下 なんかこんな感じでまとまりそうですかね、この座談会。

真住 今すごくきれいにまとまった感が。

吉澤 いい終わり方になりそうです。

真住 先々もまだコロナも第何波とかあるかもしれないですし、そういった困難もつきまといそうですが、このメンバーならまだまだいろいろできることがあるという確信に変わった気がします。

また対面でもお会いできることができる日が早く来るようにと願いつつ、どうでしょう、今日のところはこんな感じで、吉澤さん。

吉澤 たくさんお話しできて嬉しかったです。ありがとうございました。

内田 この真ん中のパズルがどんどん曼荼羅のように広がっていくわけですね。

真住 いやいや嬉しいですね。5年やってきて、こうやって評価いただけるというのは、大変嬉しいです。こういう形で会社の中で評価いただいたのは、みなさんのお力あってのことです。

内田 この評価対象ですが、ワンチームですから、新美の関わってくださったみなさんも含まれているんです。実は。



| | |
|--|--|
| 特別賞 | |
| <p>【社会貢献】国立新美術館_教育普及活動への参加 (応募者が提案する部門)</p> <p>応募者：東海寿希子、森山みずき、ロバートロバート、山下達夫、内田幸子、漢美美穂、佐野真、トコトコ、堀江美由、藤田、藤野花、金井由衣、鈴木隆平、斎藤和樹、高田由二、高橋洋平、関根あゆみ、藤村元、小島川</p> <p>【評価点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当社50周年記念行事を機に国立新美術館が主催する教育普及プログラムの開催・企画支援を継続的に実施。 ・当初の目的であった建築ツアーのサポートにとどまらず、活動領域を拡大・進化させている。 <p>【講評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築の楽しさを伝えることで、将来建築に興味を持つ人、目指す人が増えることに繋がると期待したい。 ・業務外のボランティア活動は本賞の表彰対象ではないが、本活動は当社50周年記念行事の継続的な継承であり、建築文化を人々に広める重要な活動として、特別に表彰したい。 | |
| 応募理由 | <p>■応募部門名...「進化する絆のカタチ」</p> <p>■応募理由...この賞状活動内容と継続の経験を広く社内に発信することにより、日本設計の社会貢献への新たなアプローチへの気づきと、更なる新たな社会貢献活動創出を期待することと考えたため。</p> <p>【1】 賞状の目的を捉えた活動領域の拡大と進化。当初の目的：新美が主催する建築ツアーのサポート (専門知識を生かしたツアーガイド)</p> <p>【2】 進化するOne teamのカタチ：年次毎に公募するメンバーに加え、有志OBを軸に活動進化していくチーム。継続活動は継承され、異なる知識・世代間連携を活動に実装させて新しい価値 (社会貢献) を創出している。</p> <p>【3】 進化するOne teamのカタチ：日本設計・新美・参加者組織・立場の垣根を越えて相互に研鑽し進化をしている。</p> <p>【4】 継続し、進化し続ける活動のカタチ：50thの企業により開始した活動を継続し、今後も継続可能な仕組み・活動を生み出していること。</p> <p>【5】 活動の基盤は個人がボランティア：JOBの負担は平日業務時間内に開催する打ち合わせ時の交通費及び人工。それ以外は個人負担。</p> |
| 特賞すべき評価ポイント | <p>「進化する絆のカタチ」社会貢献活動は指導に専任するという一方向の活動では成らず、参加するすべての人々の共創により成り立、進化も継続する。</p> <p> One team++ 組織の枠を超え未来世代の共創をするチーム + 国立新美術館 + 過去〜未来・参加する全ての人 </p> <p> Value++ 教育普及活動の価値を高め進化させている + プログラムの企画と継続拡大 + 新たな社会貢献活動創出への気づき </p> <p> Step++ 2020年のコロナで止まった原動力への + New normalへの進出を促す (教育プログラムの継続を機軸として) + 未来継続的な活動の仕組み </p> |

⑧ 特別賞

⑨ 応募資料



これまでに建築ツアー・こどもたんけんツアーに参加した、株式会社日本設計のボランティアと国立新美術館スタッフのコメントを集めました。

名前

参加年度

所属・専門 ※参加年度当時の所属を記載

井口 茉優 いぐちまゆ

令和2年度

国立新美術館インターン

免震ワークショップでは企画の打ち合わせから参加させていただいて、学生の身ではありましたが美術館の業務を経験できたのではないかと感じています。こういったイベントが開かれるのは多くなかったので、運営側として参加出来たことがとても嬉しかったです。子供たちとのコミュニケーションも取れて、楽しかった！という感想を直接聞けてやりがいを感じる事が出来ました。

今井 祥子 いまいしょうこ

令和3年度

国立新美術館教育普及室

国立新美術館に職員として就任した最初のタイミングで関わったのが建築ツアーでした。5周年の最後の開催年にしか関わっていない自分にとっては、むしろ本記録集の制作過程に関係者の想いや考えを知るための時間を得られたと思います。専門や目的の異なる関係者が継続的に活動を行うことの面白さ、困難さを感じました。

石井 まどか いしいまだか

令和2年度

国立新美術館インターン

私がインターンとしてお手伝いさせていただいた2020年は新型コロナウイルスの影響もあり、従来の対面形式の建築ツアーと打って変わって「CONIC」というアプリを使用した建築ツアーが開催されました。遠隔でたてものはかせとお話できるブースがあったり、「CONIC」に導かれながら謎解きに挑戦したりと、イレギュラーながらも創意工夫に溢れた面白い試みでした。館内を探検する子供達の楽しげな声が今も印象に残っています。

今関 友里香 いませきゆりか

令和元年度

国立新美術館インターン

建築ツアーは、インターン中に経験させていただいたイベントの中でも特に楽しかったと記憶しています。ツアーの際には、教育普及室や日本設計の皆様大変お世話になりました。国立新美術館の建築について勉強し、学んだことを参加者の方と共有できた時の喜びは、三年近く経った今でもよく覚えております。建築ツアーに関わらせていただいたことを大変嬉しく思いますし、今後のさらなる発展に期待しています。

岩井 達弥 いわいたつや

平成30/令和元年度 ゲスト解説者

岩井達弥光景デザイン 専門：照明デザイン

照明デザインについて多くの方にお話しする機会を与えていただき大変感謝しています。参加者の方々が熱心に聞いて下さったことは、計画に携わった者として喜びに堪えません。最近、私はいくつかの美術館博物館改修計画に関わりました。SDGs時代にふさわしい、開館当時の建築意匠を保った改修計画でした。日本の建築史に名を残す国立新美術館もその意義を後世に未永く語り継げることを願っております。

内田 幸子 うちだゆきこ

平成29/平成30/令和元/令和2年度

日本設計ボランティア 専門：インテリア設計

いつも幾つもの新たな発見をさせて頂いています…私達の専門知識を共有することを喜んでくださる方々が沢山居ること。一期一会：ツアーに参加する方々との出会いでそれぞれの場が創り出されること。過去ひとつとして同じツアーは無いこと。困難な状況もアイデアで打開できること。専門も背景も異なる同志協働が様々な発明をすること。進化できること深化できること。…社会貢献協力とは誠にオコガマシク、楽しく参加し学んでいます。

卜部 祐加 うらべゆか

令和元/令和2年度

日本設計ボランティア 専門：建築意匠設計

建物にはそれぞれ「そのように設計した理由」がありますが、新美にはたくさんの創意工夫と理由があり、エピソードに事欠きません。建築ツアーを通じて、新美の奥深さに触れたり、参加者の皆さんに楽しんでもらえるよう伝え方を工夫したり、毎回様々な学びや発見がありました。いつか子供と一緒に参加者としてツアーを楽しみたいと思っています。

宇田川 恭子 うだがわきょうこ

平成28/平成29/平成30年度

日本設計ボランティア 専門：建築意匠設計/リノベーション設計

参加のきっかけは、瀬戸内芸術祭で道を尋ねた地元のお爺さんから、草間彌生さんのかぼちゃの話と、好きが高じて青森の十和田市現代美術館まで行ったという話を聞いたからです。そのような力を授けてくれるアートに建築を通して関わりたいと思いました。建築ツアーでは、参加者や学芸員の方々と交流できたので本当に楽しかったです。また任期中の誕生日に草間彌生展が始まり、国立新美術館でかぼちゃに再会できたのは不思議な巡り合わせです。

浦 有希 うらゆうき

平成29/平成30年度

国立新美術館インターン

隊長として参加したこどもたんけんツアーでは、ヘルメットをかぶって子供達と館内を探検しました。大きなエレベーターに乗ったり、床の中を台車に乗って移動したり、初めて見る設備や装置に興味深々で、写真を撮ったり質問をするなどワクワクした子供達の表情が印象に残っています。建築ツアーがきっかけで私も建築に興味を持つようになり、素敵な建物を調べたり見に行くようになりました。これからも続いてほしい企画です。

岡田 曜子 おかだようこ

平成28/平成29年度

日本設計ボランティア 専門：建築意匠設計

2017年、こどもたんけんツアーと建築ツアーのガイドを務めました。こどもたんけんツアーには、将来の夢が「建築家」の小学生の姪が参加しました。彼女の夏の自由研究にはたんけんツアーで学んだ国立新美術館の不思議や体験が写真とともに色鮮やかに描かれ、こういう建築をつくれるようになりたい！と締めくくられていました。自分の設計の仕事を誇りに思うとともに、子供達の夢にも影響するような機会をいただいたことを感謝しています。



金崎 由女 かねさき ゆめ

令和元/令和2年度

日本設計ボランティア 専門:インテリア設計

個人的にとっても好きな美術館でよく訪れていましたので、初めて参加した際は、普段は入ることの出来ない場所に入ることができ、ワクワクしました。また入社して年数の浅い時期から参加させていただきましたので自身の学びにもなりまし、ツアー参加者に分かり易く説明するというのも良い経験となりました。

讃井 章 さぬい あきら

平成30/令和元年度

日本設計ボランティア 専門:建築意匠設計

この建築ツアーの魅力は、会館中に裏方から始まり展示されるまでの一連の流れ、美術館の建築としての役割を体験的に知ることができることだと思います。私自身は、この一連の流れや役割を形にしていく建築を創る仕事に関わっています。そのためガイドとしてツアーの参加者へ当館の建築的な魅力を率直にお伝えできる機会は、美術館に関係する方々、また私にとっても重要な社会活動と感じておりました。

澤田 将哉 さわだ まさや

平成28/平成29/平成30/令和元/令和2年度

国立新美術館教育普及室

国立新美術館は六本木側と乃木坂側で1フロア分の高低差があり、この高低差を活用して設計した結果、トンネルという解決策ではない導線を街の中心部に生み出しました。美術館は、単に展示会場としての機能を備えていれば良いという訳ではありません。私自身が建築ツアーの担当者としてこの企画に関わり、国立新美術館を知ってもらおう仕組み作りに貢献できていたとすれば、この上なく光栄な機会に恵まれていたのだと実感しています。

清水 里司 しみず さとし

平成28/平成29年度

日本設計ボランティア 専門:建築意匠設計

2016年日本設計の「創立50周年記念事業」の一環で、我々の知識・経験を生かせる社会貢献事業を模索していたところに、国立新美術館の「開館10周年記念・建築ツアー」とコラボすることとなり、2017年1月にコラボ企画の第一回目が実現しました。これまで美術館が独自に行っていた「建築ツアー」に、我々が参加し「メカニカルウェハー」や「光壁裏側」、「免震構造」などの紹介をその当時加えたことで、参加者がより美術館(という建築)に親しみを持っていただければ、第一回目の企画をしてきた者として嬉しく思います。

柴草 哲夫 しばくさ てつお

平成28/平成29/平成30/令和元年度

日本設計ボランティア

私の役割は、ツアーの最初に館の概要をお話し、ツアー中の予期せぬ質問にお答えすることでした。冒頭の説明は難しかったようで、前の席に座った子供達の反応が今一つ。後ろの席の保護者のほうがコクコクと背かれてたのが印象的でした。子供達も時間がたつにつれて、時折質問をしてくれたり、笑顔も見せてくれます。子供も大人も普通に建築にご興味お持ちなのだと感じることができた貴重な体験でした。

須賀 貴康 すが たかやす

平成29/平成30/令和元年度

日本設計ボランティア 専門:建築意匠設計

建築を設計する場合は、お金や土地を出す「施主」との打合せがほとんどです。設計者として実際の利用者と接する機会を持ちたいと思っていた矢先、建築ツアーという場を提供頂きとても感謝しております。年齢層も幅広く、多様な方の意見や会話は楽しくも参考になりました。また管理サイドの利用状況も勉強になりました。このような建築ツアーを企画できるような、楽しさと奥深さを持った設計をしていきたいと思っています。



杉本 雅晃 すぎもと まさあき

令和2/令和3年度

国立新美術館教育普及室

建築ツアーを初めに体験したのは、コロナの関係で日本設計の皆様をたてものはかせとして、参加者とタブレットで通信した回でした。ところが、私が配置についたところのタブレットが急に不調となり、たてものはかせの声が聞こえなくなっていました。困っているとインターンさんが盗難防止用のケースをこじ開けて音量ボタンを調節してくれました。建築ツアーも助けられながら行ってきたなとつくづく感じています。

関根 梨沙子 せきね りさこ

令和元/令和2年度

日本設計ボランティア 専門:建築意匠設計

私にとって建築ツアーとは、「建築家としての社会的な使命やお仕事のやりがいを改めて実感するきっかけ」となっています。初めて建築ツアーに参加した時に、「建築ツアーはとても人気があって、なかなか当選しないのですが、ようやく今回参加することができました。」という参加者の方からのお話をお聞きし、国立新美術館がたくさんの人から愛されていることや、建築に興味を持ってくださっている方がたくさんいらっしゃることを知りました。社会貢献活動として参加させていただきましたが、私自身も学びの多い経験をさせていただき、本当に感謝しております。これからも、たくさんの人から愛され、長く使いづけていただけるような建築を設計できるよう、日々精進したいです。

高橋 梨佳 たかはしりか

平成28/平成29年度 国立新美術館インターン／

平成30年度 サポート・スタッフ

学生インターンやボランティアもガイドをおこなう「スタンダードコース」では、私もインターンとして何度かガイドを経験させていただきました。その中で、学生のガイドによるツアーのサポートに入ることも楽しみのひとつでした。共通のガイドの文章にそれぞれの学生の専門分野を活かした解説が加えられ、いつもちがう発見があったからです。「建築」と一言で言っても、さまざまな切り口で見るとおもしろさを知ることができました。

鈴木 寛世 すずき ひろよ

平成29/平成30年度

日本設計ボランティア 専門:リノベーション設計

キッカケは、社内の社会貢献サポートメンバー募集に参加してみようと思った事。このツアーガイドを体験してみて、建築物をじっくりツアーで廻ってみると様々な景色があることに気が付いた。印象に残っているのは、展示室下のメカニカルウェハー(空調機械室)をメンテナンス台車に乗って、子供達が楽しそうに体験している様子。建築物を肌で体験し人間と同じように、建築物も生きていることを感じてもらえればと思った。

関野 真理恵 せきの まりえ

平成28/平成30年度

日本設計ボランティア 専門:コスト設計

2017年の冬に行われた建築ツアーと2018年の夏に行われた夏休み子どもたんけんツアーに参加させていただきました。ボランティア活動に参加した動機は建築に携わり建物を世に残していく側の人間として、私たちの手を離れた後も建物を通して社会貢献ができればという思いで参加させていただきましたが、実際の建築ツアーでは沢山の方々の国立新美術館への興味や思い子供たちの新鮮な発見などを体感し、胸が熱くなりました。

竹ノ下 彩香 たけのした あやか

平成28年度 国立新美術館インターン／

平成29年度 サポート・スタッフ／

令和3年度 総務課事業担当

2021年に4年ぶりにスタッフとして参加しました。インターンとして参加した時から変わらずに先輩がデザインしたトートバッグが使用されていることに懐かしさを、また、以前と内容が変化していたことに新鮮さを感じました。印象的なことは参加者が「美術館に愛着を持った」という感想です。展覧会だけでなく、美術館そのものに親しみを感じてもらうことは素敵なことです。10年、20年、その先も、新美の魅力伝える建築ツアーが続いていくことを願っております。



張 京花 ちょう きょうか

令和元年度
日本設計ボランティア

私は「建築ツアー」に参加したのは、社会貢献サポートメンバー募集を見て応募しました。ツアーガイドとして、社会人と子供たちに美術館の案内を通じて、自分も普段見られない美術館内部の空間を見られたこと、嬉しいと思いました。2年前海外のお客様さんに日本設計作品を案内する機会がたくさんありました。今後新美の案内もできると、自信を持ちました。

塚田 匠 つかだ たくみ

平成30年度 国立新美術館サポート・スタッフ/
令和元年度 インターン

私にとって初めて魅力を人に伝える経験がこの建築ツアーのツアーガイドです。学習者の方々が知識や気づきを得る機会のお手伝いをさせていただき、学ぶことの楽しさを再認識することができました。また、人の驚きと感動に直に触れることができる機会はとても貴重な体験になりました。ツアー参加者にも、これからのインターン生にとっても有意義な場として、これからの建築ツアーが機能していくことを陰ながら応援しています。



濱野 夏帆 はまの かほ

平成29年度 国立新美術館サポート・スタッフ/
平成30年度 インターン

建築ツアーは「こどもたんけんツアー」から大人向けの「マスターコース」まで、たくさん参加させていただきました。「この建築すごいでしょ!？」と自慢する気持ちで毎回参加していましたが、参加者のみなさんの反応や、ツアー中に見えた景色から、次々と新たなお気に入りの新美術館像が見つかってとても楽しかったです。インターンは卒業しましたが、いまだに新美に行く度にひとり建築ツアーを楽しんでいます(笑)

林 直央 はやし なお

令和3年度
国立新美術館インターン

建築ツアーは、私がインターン活動の中で最も楽しみにしていたもののひとつでした。こどもたんけんツアーでは、チェックポイントで皆さんを待っていると、遠くから見つけて走ってきてくれたり、家族の方も質問してくださったり、私自身がとても幸せな気持ちになったのを覚えています。建築ツアーで出会ったたくさんの方々から様々なことを学ぶことができ、参加させていただいたことにとっても感謝しています。

東條 有希子 とうじょう ゆきこ

令和元/令和2/令和3年度
日本設計ボランティア 専門:建築構造設計

一般の方にわかりやすく・関心を惹くように言葉を選ばないといけないと気を付けているつもりでなかなかできない、と毎度反省が多いですが、それでも参加者の方にいい反応を頂けるとありがたいなあと思います。人前で喋るのは本当に苦手なので、毎度ガタガタしていて、まだ慣れません。

中村 公彦 なかむら きみひこ

平成30年度
国立新美術館インターン

私の最も印象に残っている建築ツアーは「夏休みこどもたんけんツアー」です。チラシの制作からこの企画に関らせていただき、当日もツアー・ガイドとして参加しました。質問をしてくれる子、熱心にノートをとる子や、建築の細かい数字の情報をツアーの最後まで覚えている子もいて、参加した子どもはみな非常に積極的でした。ガイドの私も、子ども達の熱意に引っぱられていたと思います。

百武 恭司 ひやくたけ きょうじ

平成28/平成29年度
日本設計ボランティア 専門:都市計画、まちづくり

私が参加したのは、ツアーに日本設計が協力する初年度で手探り感も強く、テクニカルな面の説明をツアーに盛り込み始めた時期と記憶しています。ツアーでは、特に子供達の新鮮な反応が非常に勉強になり、改めて自分達が創っているモノの意義を再確認でき、参加させて頂いたことにとっても感謝しております。活動自体がその後、自身の仕事の遣り甲斐にも繋がったように思います。今後も広く一般の方に建築に触れてもらう機会として継続を期待します。

廣畑 佑樹 ひろはた ゆうき

令和元/令和2/令和3年度
日本設計ボランティア 専門:建築意匠設計/PM・CM

私が建築ツアーに最初に参加させて頂いたのは入社1年目のまだ研修中の時期で、建築設計の基礎を学んでいる段階にも関わらず国立新美術館について一般のお客様を相手にガイドが出来るのかと不安でしたが、ツアーを通して自分の言葉で説明し質問に答える中で、一般の方と建築を通して直接対話する機会を得られたことは今私の糧であり、デスクで図面と向き合っているだけでは得られない大変貴重な機会だったと感じています。

西川 建 にしかわけん

平成28/平成29/平成30年度
日本設計ボランティア 専門:建築/建築意匠設計、工事監理

国立新美術館の設計当時は黒川紀章設計の設計担当者の立場でしたので、建築ツアーが企画されたときに、設計に携わった者の一人として参加しないわけにはいかないという思いでボランティアとして参加させていただきました。建物は語らない(当然ですが)ので、設計者の思いを来館される皆さんに伝える機会ができることは設計者として大変ありがたいことでした。設計の思想や考え抜いて決めた様々なことを語るの、たいへん楽しい時間でした。最も私の話はほとんど裏話でしたが、こちらも楽しんでいただけたのではないかと思います。

畑江 未央 はたえ みお

令和元年度
日本設計ボランティア 専門:建築意匠設計

建築に関する専門的な内容に興味を示して下さる方がこんなにたくさんいることが最初に感じた嬉しい驚きでした。そして、反応を実感として受け取れることで、建築設計という仕事の魅力を改めて気づかせて頂きました。ツアーガイドとしてお話をさせて頂く体験は、日々の仕事とは異なるアプローチで建築の社会性が感じられる有意義な時間でした。

馬 雪 マ シユエ

令和元年度
日本設計ボランティア 専門:都市計画

国立新美術館の建築ツアーは、建築家と利用者が直接出会う機会です。設計者とユーザーが建物を使用するときにリンクを作成するだけでなく、建築の知識と考え方を伝達し、意識の新しいリンクを生み出すことができます。このプロセスは一方的なものではなく、設計者として、私はユーザーの意識の伝達を感じているのです。プロフェッショナルな役割で人間のコミュニケーションを体験することは新しい視点です。

牧野 寛 まきの ひろし

令和元/令和2年度
日本設計ボランティア 専門:インテリア設計

私自身は直接この美術館建設への関わりは無かったのですが、個人的にとっても建物への興味がありましたので、建築ツアーの説明する側として事前に設計資料などで計画内容を確認しておき、まるで自分が計画したかのようにとても楽しくツアー案内を行うことが出来ました。そして参加の皆さんがとても興味を持って喜んでいただけたことで、設計の仕事に対する愛着や自信を改めて感じさせていただきました。



真住 貴子 ますみたかこ

平成28/平成29/平成30/令和元/令和2/令和3年度
国立新美術館教育普及室

コレクションのない美術館で、常にお客様に見ていただけるのが建築。まずはそこで一つ看板になる教育プログラムを作ろうと思いました。実際に実施していく中で、多くの人々の知恵と力を借りて、建築を通して美術館の持つ機能や使命も紹介できる国立新美術館の人気プログラムに成長させていただいたことに感謝しています。

宮田 浩二 みやた こうじ

令和元/令和2年度
日本設計ボランティア 専門:建築意匠設計

ボランティアに参加しようと思ったきっかけは、改めて美術館の空調設備、搬入動線、大空間の展示間仕切りが、どう使われているかを見たいと思ったのと、竣工間際1か月間だけ現場事務所を手伝った事を思い出したからです。協働して参加出来た事は、楽しく、ツアーを通して一般の方の建築への関心の高さに驚くと共に、素朴な鋭い質問に答える事で、責任に気づかされました。



吉澤 菜摘 よしざわ なつみ

平成28/平成29/平成30/令和元/令和2/令和3年度
国立新美術館教育普及室

2006年の夏、国立新美術館の教育普及室に着任した私の最初の仕事が、プレ・オープニング企画の建築ツアーでした。建築のことは何一つ知りませんでしたが、「何か面白いことが始まる」とワクワクしたのを覚えています。それから10年後、再び建築ツアーを担当することになったとき、私には日本設計の方々の初めとする沢山の心強い仲間ができました。仲間たちと一緒に5年間続けてきた建築ツアーは、今も私をワクワクさせてくれます。

Robert Dwiputra ロバートドゥウィプトゥラ

平成29/平成30/令和元/令和2年度
日本設計ボランティア 専門:建築構造設計

構造設計者として、殆どの物事を理論的に考え、工学的に判断している。しかし、本来の建築設計は構造だけで成り立たない。建築ツアーに参加することで、意匠・設備などのすべての要素を漏れなく復習し、一つ一つの要素の役割や関係性を改めて理解した。更に参加して下さった方々のバックグラウンドが様々であるおかげで、同じ物を見るにしても観点が異なっており、毎回新たな気づきを教えてくださって、非常に貴重な経験だった。

紫安 みずき むらやす みずき

令和元/令和2/令和3年度
日本設計ボランティア 専門:インテリア設計

これまでに建築ツアー、CONICツアー、免震ワークショップに参加させて頂きました。いずれも、建築や新美に対して「好き」を持った人たちが集まる出会いの場であり、色んな立場の人が何を感じ、何を求めているのかを知ることが出来る、貴重な学びの場ともなりました。人との繋がり的重要性を感じる昨今、このような機会に恵まれたこと、参画させて頂いていることを心より感謝申し上げます。

山際 真奈 やまぎわ まな

令和2/令和3年度
国立新美術館教育普及室

「なぜ美術館で建築ツアーなのか？」と思っていた着任当初。「新様式編」を含めた様々な形での建築ツアーに携わらる中で、普段は気づくことのなかったデザインや機能を発見する喜びや、これまでの「あたり前」に疑問や好奇心を持てるようになるプロセスは、アートとの出会いと重なる部分があることを実感しました。子どもから大人まで、「なんで?」「そうなんだ!」が顔いっぱいになる場に立ち会うことができ、ご協力いただいた皆様に感謝でいっぱいです。

渡部 名祐子 わたべ なゆこ

平成28/平成29/平成30/令和元年度
国立新美術館教育普及室

大勢の人の活躍と交流が印象に残っています。とても楽しみにしていました!と温かい言葉をかけて下さる参加者の皆様。専門的な内容を親しみやすい言葉で語り、ツアーを盛り上げて下さる日本設計の皆様、自分の視点を活かした解説で、楽しいツアーガイドになってくれるインターンさん、学生ボランティアさん。そして、様々なかたちでツアーを支えた美術館の皆さん。みんなでわいわい言って建築ツアーはでき上がりました!

山下 博満 やました ひろみつ

平成28/平成29/平成30/令和元/令和2/令和3年度
日本設計ボランティア 専門:建築意匠設計、都市計画、PM・CM

新美さんが開館10周年となった2017年、日本設計創立50周年企画の一環として建築ツアーマスターコースの企画に参加させていただき、初回のトーカーを務めました。避れば東日本大震災の翌年、以前設計した岩手県美での「ルーヴル美術館からのメッセージ:出会い」展に個人協賛したことが良きご縁となりました。以降毎年、参加者の皆さまに出会うことで元気をいただいています。今では建築ツアーガイドが趣味の一つになりました。

吉岡 直哉 よしおかなおや

令和3年度
国立新美術館インターン

インターン活動の中で、初の対面での教育普及プログラムが「こどもたんけんツアー」でした。私は、ポスターとフォトスポットの制作に携わらせていただき、それを形にして当日皆さんをお迎えできたことに大きな喜びを感じました。新美のユニークな建築の構造と理念を通して、コロナ禍による制限の中でも、参加者同士や美術館関係者、日本設計さんとの交流の場が創生され、こどもたちの自由な創作にも繋がっていたのが魅力的でした。





◎ 建築ツアー

何回も来ている新美の、まだ知らなかった一面が見られてすごく楽しかったです。バックヤードの作業用エレベーター、ほんとうに静かだった！周囲の森との調和、建物自体の美しさ、ユニークさ。新美がますます好きになりました。

普段何気なく訪れている美術館の裏側や、建築、展示面での細かな工夫を知り、訪れる楽しみが増えました。今回様々なことをお聞きしたことで、日常の中で目にする建築物への見方が変わり、より建築への興味関心が深まりました。

免震などの安全面と機能性と、デザインと、コンセプトと、たて糸とよこ糸が織り重なって一つの作品と成っていることに感銘を受けました。

美術館は、見えている部分だけではなく、床下や外や警備など様々な部分を担当されている人々で成り立っているということが、改めてよくわかりました。

ていねいで、気づかいのある説明とアテンドとても楽しかったです。業務的でなく、「好き」「大切」を感じるツアーで、一員となった気分でした。

デザイン性の高い建物だなとは思っていましたが、機能性も高く、国立新美術館のコンセプトを果たすべくよく考えられた建築物だと感じました。自分ではなかなか調べようと思わないので、ちょうどいい時間のツアーでよかったです。

何度も来ていましたが、光壁とか外観とか傘立てとか…気づいていなかったことがたくさんありました。しかも普段見ることができないバックヤードまで見られて、とっても興味深く、面白かったです。



◎ こどもたんけんツアー

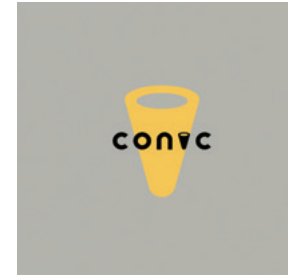
かべが光ったり、かべが動いたりすることをはじめて知りました。また、いつもだと入れない所に行ったら、予想とちがう場所でした。もっと美じゅつ館の中をたんけんしてみたくまりました。

床下には、なかなか行く事ができないので、今回行く事ができて良かったです。光るかべの中に入れて楽しかったです。また、場所によって空調の形が違って面白かったです。

光るかべの中はせまかったけど工夫されていてすごいと思った。展示室のかべが動くのを知って、それが人の手で動かせることにびっくりした。

下から空気が出てきてずしくなるけどその空気が上に行くようにされているのがおもしろかった。

1階のコーンのところがとてもおもしろかった。じしんがきてもこのはくぶつかんは少ししかゆれないことが分かった。



「国立新美術館建築ガイドアプリ CONIC(コニック)」は、2020年より配信されている、国立新美術館の建築について紹介するウェブアプリです。利用者はスマートフォンなどの端末にダウンロードして、建築の見どころに関する解説を視聴したり、館内のおすすめスポットを巡るツアーをアプリ上で体験したりすることができます。2020年3月に日本語版の配信が開始された後、同年10月に英語版、翌年1月には中国語版と韓国語版が公開され、2022年3月現在、4か国語で提供されています。

2017年から始まった建築ツアーが非常に好評で、特にマスターコースは毎回定員を大きく超える応募があり、参加希望者全員を受け入れられない状況が続いていたことから、より多くの人が、いつでも建築の情報を得られる新たなサービスとして、建築ガイドアプリ CONICが開発されました。CONICで視聴できる30件の見どころ解説や、2種類の建築ツアーの内容作りには、5年間の建築ツアーを通じて蓄積されてきたスタッフの知識や経験、そして、ツアー参加者からのフィードバックが活かされています。

CONICが公開された当時は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による臨時休館が続いていましたが、その間も CONICは「お家でも楽しめる」アプリとして、国立新美術館の建築の魅力を発信しました。また、2020年10月に開催された「建築ツアー2020“新しい様式”編 CONICスペシャルコース」では、参加者が各自のスマートフォンにアプリをダウンロードして、CONICの「スタンダードコース」のツアーで表示される経路に沿って館内を巡り、途中に設けられたチェックポイントで日本設計の社員有志とオンラインで対話したり、クイズなどに挑戦したりしました。建築ツアーをはじめ、今後様々な事業での活用が期待されるアプリです。



<https://conic.nact.jp/>



CONICの概要

配信開始:2020年3月18日

動作環境:iOS 10.0以降 / Android 7.0以降

※お使いのデバイスにより動作に制約がある場合がございます。

言語:日本語、英語、中国語、韓国語

開発・提供:国立新美術館

企画・テキスト執筆・編集:国立新美術館 教育普及室

アートディレクション、デザイン、フロントエンド・バックエンド実装:GREEN GHOST



国立新美術館建築ツアー 運営メンバーリスト

平成29(2017)年1月

国立新美術館開館10周年記念 建築ツアー 歩く・見る・知る美術館

- 日本設計
 - 宇田川恭子、岡田曜子、柴草哲夫、清水里司、関野真理恵、西川建、百武恭司、山下博満
- 国立新美術館
 - 会津麻美、喜田小百合、小山祐美子、佐藤遥、澤田将哉、久松美奈、真住貴子、吉澤菜摘、渡部名祐子
- インターン
 - 高橋梨佳、竹ノ下彩香
- サポート・スタッフ
 - 佐久間唯、杉江有咲、為我井脩、寺田理紗、全悦、養田もえ

平成29(2017)年7月

夏休み子どもたんけんツアー2017～国立新美術館のひみつをさがそう!～

- 日本設計
 - 宇田川恭子、岡田曜子、柴草哲夫、清水里司、鈴木寛世、圓谷彩永子、百武恭司、山下博満
- 国立新美術館
 - 澤田将哉、真住貴子、吉澤菜摘、渡部名祐子
- インターン
 - 浦有希、大岩郁穂
- サポート・スタッフ
 - 金田萌永、児玉みなみ、為我井脩、筒井美世子、深沢明日、古川智崇、養田もえ

平成29(2017)年10月

国立新美術館開館10周年記念 建築ツアー2017 歩く・見る・知る美術館

- 日本設計
 - 宇田川恭子、内田幸子、岡田曜子、須賀貴康、鈴木寛世、西川建、山下博満、Robert Dwiputra
- 国立新美術館
 - 佐藤遥、澤田将哉、真住貴子、吉澤菜摘、渡部名祐子
- インターン
 - 浦有希、大岩郁穂、高橋梨佳
- サポート・スタッフ
 - 児玉みなみ、高木美沙、竹ノ下彩香、筒井美世子、濱野夏帆、半田成美、古川智崇、本多玲衣、養田もえ

平成30(2018)年5月

「六本木アートナイト2018」特別プログラム 国立新美術館 建築ツアー2018 歩く・見る・知る美術館

- 日本設計
 - 宇田川恭子、讃井章、柴草哲夫、須賀貴康、鈴木寛世、西川建、山下博満、Robert Dwiputra
 - 国立新美術館
 - 澤田将哉、真住貴子、吉澤菜摘、渡部名祐子
 - インターン
 - 浦有希、大岩郁穂、中村公彦、濱野夏帆
 - サポート・スタッフ
 - 塚田匠、藤井眞生、古川智崇、本間真理
- ゲスト解説:岩井達弥

平成30(2018)年7月

夏休み子どもたんけんツアー2018～国立新美術館のひみつをさがそう!～

- 日本設計
 - 宇田川恭子、内田幸子、讃井章、柴草哲夫、須賀貴康、関野真理恵、Robert Dwiputra
- 国立新美術館
 - 澤田将哉、真住貴子、吉澤菜摘、渡部名祐子
- インターン
 - 浦有希、大岩郁穂、中村公彦、濱野夏帆
- サポート・スタッフ
 - 佐藤梓、高田美来、高橋梨佳、竹ノ下彩香、田部早結里、塚田匠、友利文香、半田成美、藤井眞生、古川智崇、本間真理、湯澤安未

平成30(2018)年12月

国立新美術館 建築ツアー2018 歩く・見る・知る美術館

- 日本設計
 - 宇田川恭子、讃井章、須賀貴康、鈴木寛世、関野真理恵、西川建、山下博満
- 国立新美術館
 - 澤田将哉、真住貴子、吉澤菜摘、渡部名祐子
- インターン
 - 浦有希、大岩郁穂、中村公彦、濱野夏帆
- サポート・スタッフ
 - 高田美来、塚田匠、パーンスタイン織美也

令和元(2019)年5月

「六本木アートナイト2019」特別プログラム

国立新美術館開館 建築ツアー2019 歩く・見る・知る美術館

- 日本設計
 - ト部祐加、金崎由女、讃井章、須賀貴康、張京花、畑江未央、廣畑佑樹

- 国立新美術館
 - 澤田将哉、真住貴子、吉澤菜摘、渡部名祐子

- インターン
 - 今関友里香、林早紀、塚田匠

ゲスト解説：岩井達弥

令和元(2019)年8月

夏休み子どもたんけんツアー2019 ～国立新美術館のひみつをさがそう!～

- 日本設計
 - 内田幸子、ト部祐加、金崎由女、須賀貴康、鈴木隆平、張京花、廣畑佑樹、馬雪、牧野寛、山下博満、Robert Dwiputra

- 国立新美術館
 - 伊佐敷真孝、澤田将哉、真住貴子、吉澤菜摘

- インターン
 - 今関友里香、塚田匠、林早紀

- サポート・スタッフ
 - 栗原茉海、小山葵、武下華奈、田中愛唯、松岡実乃里、城間日佳梨、山内早葉

令和元(2019)年12月

国立新美術館 建築ツアー2019 歩く・見る・知る美術館

- 日本設計
 - ト部祐加、金崎由女、鈴木隆平、関根梨沙子、張京花、東條有希子、馬場洋平、廣畑佑樹、藤村拓史、牧野寛、宮田浩二、紫安みずぎ

- 国立新美術館
 - 澤田将哉、真住貴子、吉澤菜摘、渡部名祐子

- インターン
 - 今関友里香、塚田匠

令和2(2020)年9月

ワークショップ 国立新美術館のヒミツー地震から人と作品を守る工夫を知ろう!

- 日本設計
 - 内田幸子、金崎由女、小早川拓、関根梨沙子、東條有希子、廣畑佑樹、宮田浩二、紫安みずぎ、山下博満、Robert Dwiputra

- 国立新美術館
 - 澤田将哉、真住貴子、山際真奈、吉澤菜摘

- インターン
 - 井口茉優、石井まどか

令和2(2020)年10月

国立新美術館 建築ツアー2020 “新しい様式”編 CONICスペシャルコース

- 日本設計
 - 内田幸子、ト部祐加、金崎由女、小早川拓、東條有希子、廣畑佑樹、牧野寛、宮田浩二、紫安みずぎ、Robert Dwiputra

- 国立新美術館
 - 澤田将哉、杉本雅晃、真住貴子、山際真奈、吉澤菜摘

- インターン
 - 石井まどか、井口茉優

- サポート・スタッフ
 - 栗原茉海、友利文香

令和3(2021)年11月

子どもたんけんツアー2021 ～国立新美術館のひみつをさがそう! 家族でたんけん編～

- 日本設計
 - 東條有希子、廣畑佑樹、山下博満、渡瀬誓

- 国立新美術館
 - 今井祥子、杉本雅晃、真住貴子、山際真奈、吉澤菜摘

- インターン
 - 林直央、吉岡直哉

- サポート・スタッフ
 - 今田優衣、高橋空良、瀧野友理

令和3(2021)年11月

国立新美術館 建築ツアー2021 歩く・見る・知る美術館

- 日本設計
 - 東條有希子、紫安みずぎ、渡瀬誓

- 国立新美術館
 - 今井祥子、杉本雅晃、真住貴子、山際真奈、吉澤菜摘

- インターン
 - 林直央

- サポート・スタッフ
 - 岩淵夏樹、近藤結子

歩く・見る・知る美術館

国立新美術館建築ツアー記録集 2017-2021

編集 国立新美術館

真住真子(教育普及室長・主任研究員)

吉澤菜摘(教育普及室・主任研究員)

山際真奈(教育普及室・研究補佐員)

今井祥子(教育普及室・研究補佐員)

杉本雅晃(教育普及室・事務補佐員)

デザイン 古谷浩司(フルデザイン)

表紙イラスト 高橋梨佳(平成28、29年度 インターン)

制作 能登印刷株式会社

発行 国立新美術館

〒106-8558 東京都港区7-22-2

発行日 2022年3月31日

©2022国立新美術館

ISBN 978-4-910253-01-5



Canon

NIHON SEKKEI

国立新美術館の教育普及活動は、株式会社日本設計、キヤノン株式会社よりご支援いただいています。

新 国立新美術館
THE NATIONAL ART CENTER, TOKYO